

こおりやま広域圏Z世代活動意欲調査 報告書

令和8年2月
郡山市 ダイバーシティ推進課
受託者 FindValue株式会社

目次

I. 調査概要

1. 調査目的.....	3
2. 調査手法.....	3
3. 本調査における「地域活動」の定義.....	4

II. 各種調査結果

1.Webアンケート.....	5
(1) 調査概要.....	5
(2) 調査結果.....	6
ア.基本情報.....	6
イ.地域との接点.....	24
ウ.地域への関心度.....	32
エ.行動阻害要因.....	42
オ.期待とニーズ.....	48
(3) 考察.....	58
2.ワークショップ.....	60
(1) 調査概要.....	60
(2) 調査内容.....	61
(3) 調査結果.....	62
ア.学生回.....	62
(ア) グループ別ワーク内容.....	62
(イ) 全体の分析.....	65
(ウ) 事後アンケート結果.....	66
(エ) 考察.....	67
イ.社会人回.....	69
(ア) グループ別ワーク内容.....	69
(イ) 全体の分析.....	71
(ウ) 事後アンケート結果.....	72
(エ) 考察.....	73
ウ.学生回・社会人回の比較および考察.....	75
(4) 考察.....	76
3.個別ヒアリング.....	77
(1) 調査概要.....	77
(2) 調査結果.....	79
ア.回答一覧.....	79
(ア) 回答者1 属性：男性・20代・社会人・県内.....	79
(イ) 回答者2 属性：男性・高校3年生・県内.....	80
(ウ) 回答者3 属性：女性・大学1年生・県外.....	81
(エ) 回答者4 属性：男性・20代・社会人・県外.....	82
(オ) 回答者5 属性：女性・20代・社会人・県内.....	83

(カ) 回答者6 属性：女性・20代・社会人・県内.....	84
(キ) 回答者7 属性：女性・大学1年生・県内.....	85
(ク) 回答者8 属性：男性・高校3年生・県内.....	86
(ケ) 回答者9 属性：男性・20代・社会人・県内.....	87
(コ) 回答者10 属性：男性・高校3年生・県内.....	88
(サ) 回答者11 属性：男性・高校1年生・県内.....	89
(シ) 回答者12 属性：女性・大学3年生・県外.....	90
(ス) 回答者13 属性：男性・高校2年生・県内.....	91
(セ) 回答者14 属性：女性・20代・社会人・県内.....	92
(ソ) 回答者15 属性：男性・高校3年生・県内.....	93
(タ) 回答者16 属性：女性・20代・社会人・県外.....	94
(チ) 回答者17 属性：女性・20代・社会人・県内.....	96
(ツ) 回答者18 属性：女性・大学1年生・県外.....	97
(テ) 回答者19 属性：女性・20代・社会人・県外.....	98
イ.集計・分析.....	99
(ア) 「参加意欲のある分野」	99
(イ) 「Z世代が地域活動に対して抱く阻害要因」	100
(ウ) 「行政への具体的な期待」	101
ウ.考察.....	101

III. 総括

1.Webアンケート.....	102
2.ワークショップ.....	102
3.個別ヒアリング.....	103
4.全体の総論.....	103

IV. 付録

1.Webアンケート調査票.....	104
2.ワークショップ内容.....	113
3.ヒアリングシート.....	115

1. 調査概要

1. 調査目的

本調査は、こおりやま広域圏にゆかりのある13歳から30歳までの若者を対象に、地域との関わり方や地域活動への意欲・関心の実態を把握することを目的として実施したものである。

調査にあたっては、Z世代が「地域とどのように関わりたいと考えているのか」「関わりたい気持ちがあっても実行に至らない要因は何か」といった点を丁寧に整理・分析し、今後の施策立案および地域プロジェクトの企画・運営に資する基礎資料とすることを目的とした。

2. 調査手法

本調査は、以下の三つの手法により実施した。

(1) Webアンケート

Googleフォームを活用し、Webアンケートを実施した。対象者の属性や地域への関心度、参加意欲、参加を阻害する要因等について幅広く把握した。

(2) ワークショップ

若者の率直な意見や背景にある思考をより深く把握するため、対面形式によるワークショップを実施した。学生を対象とした回および社会人を対象とした回を各1回、計2回開催し、参加者同士の対話を通じて意見の可視化を図った。

(3) 個別ヒアリング

Webアンケート回答者のうち、ヒアリング調査に協力すると回答した19名に対し、個別に依頼を行い、オンラインもしくは対面による約30分間のヒアリングを実施した。アンケートでは把握しきれない潜在的な動機や課題意識について、質的データとして収集した。

3. 本調査における「地域活動」の定義

本調査において「地域活動」とは、自身と関わりのある地域社会をより良くすることを目的として、地域課題の解決や人々との交流に資する行動全般を指す。なお、本調査では、組織的・継続的な活動に限らず、単発的な参加や個人単位での関わりも含め、幅広く「地域活動」として捉えている。具体的には、以下のような活動を想定している。

(1) 地域イベントへの参加・運営

交流イベント、マルシェ、地域のお祭り、清掃活動等、地域住民同士のつながりを促進する行事への参加や運営協力。

(2) 学校・教育関連活動

地域と連携した探究活動や課題研究、地域学習、PTA活動等、教育の場を通じて地域と関わる取り組み。

(3) ボランティア活動

募金活動、子ども食堂の運営補助、高齢者支援、災害支援等、社会的課題の解決を目的とした自主的な活動。

(4) 地域団体・NPO等での活動

自治会・町内会、地域サークル、NPO法人、市民団体等における活動への参加や運営への関与。

(5) 個人・家族単位での地域参加

地域行事への参加、農作業の手伝い、地域店舗や地域の取り組みへの協力など、日常生活の中での地域との関わり。

(6) オンラインでの活動

SNS等を通じた地域の魅力発信、地域イベントへのオンライン参加・支援など、デジタル空間を活用した地域との関わり。

(1) 地域イベントへの参加・運営



(2) 学校・教育関連活動



(3) ボランティア活動



(4) 地域団体・NPO等での活動



(5) 個人・家族単位での地域参加



(6) オンラインでの活動



II. 各種調査結果

1. Webアンケート

(1) 調査概要

調査目的：

Webアンケートは、こおりやま広域圏にゆかりのある13歳から30歳までの若者を対象に、地域との関わり方や地域活動に対する関心・参加意欲の実態を広く把握することを目的として実施した。

具体的には、地域活動への関心度や参加経験、参加を阻害している要因、行政や地域に期待する支援内容などを定量的に把握し、Z世代が地域と関わるうえでの意識構造やニーズを明らかにすることを目的とする。

また、本調査では、地域に関わりたい思いを持ちながらも行動に移せていない「潜在層」の存在に着目し、その背景にある要因や支援の方向性を整理することで、今後の施策立案や地域プロジェクトの設計に資する基礎資料とすることを目指した。

調査期間：令和7年10月3日（金）から12月1日（月）まで

回答方法：Googleフォームを活用したWebアンケート

有効回答数：1,024件

総回答数1,039件のうち、同一メールアドレスによる重複回答15件を除外

設問項目：基本情報、地域との接点、地域への関心度、行動阻害要因、期待とニーズ等

その他：本調査は、こおりやま広域圏にゆかりのある13歳から30歳までを対象として実施した。単一解答の回答割合については、小数点第3位を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合がある。

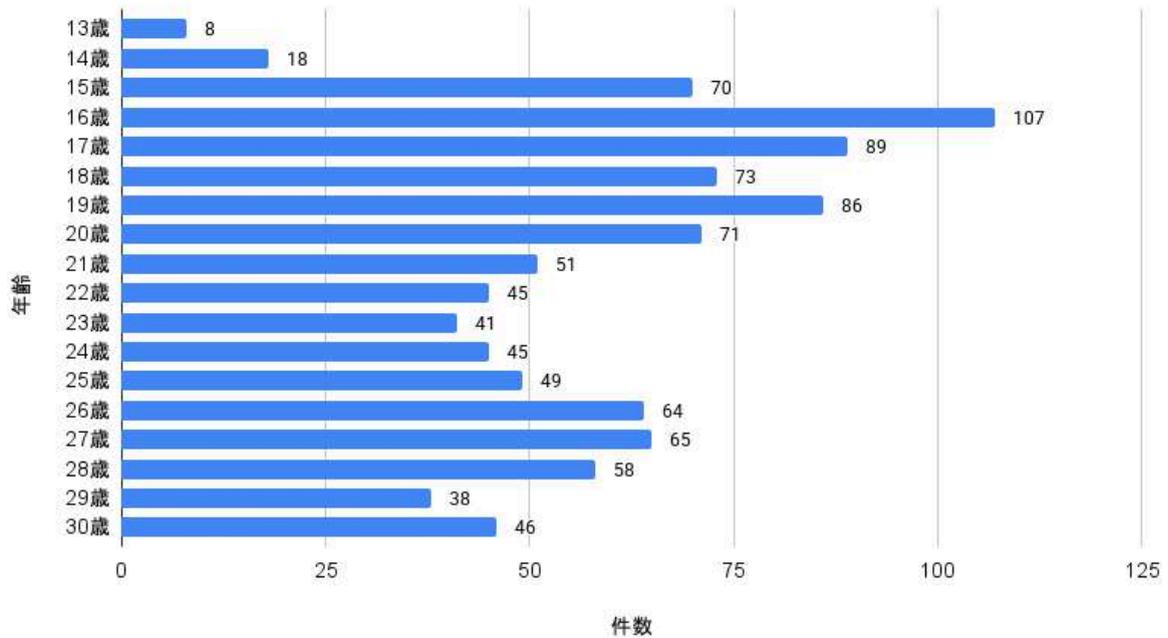
※本アンケートで使用した調査票は、IV.付録「1.Webアンケート調査票」に記載。

(2) 調査結果

ア.基本情報

<設問1>年齢（必須）

件数



年齢	件数	割合
13歳	8件	0.78%
14歳	18件	1.76%
15歳	70件	6.84%
16歳	107件	10.45%
17歳	89件	8.69%
18歳	73件	7.13%
19歳	86件	8.40%
20歳	71件	6.93%
21歳	51件	4.98%
22歳	45件	4.39%
23歳	41件	4.00%
24歳	45件	4.39%
25歳	49件	4.79%
26歳	64件	6.25%
27歳	65件	6.35%
28歳	58件	5.66%
29歳	38件	3.71%
30歳	46件	4.49%
合計	1,024件	99.99%

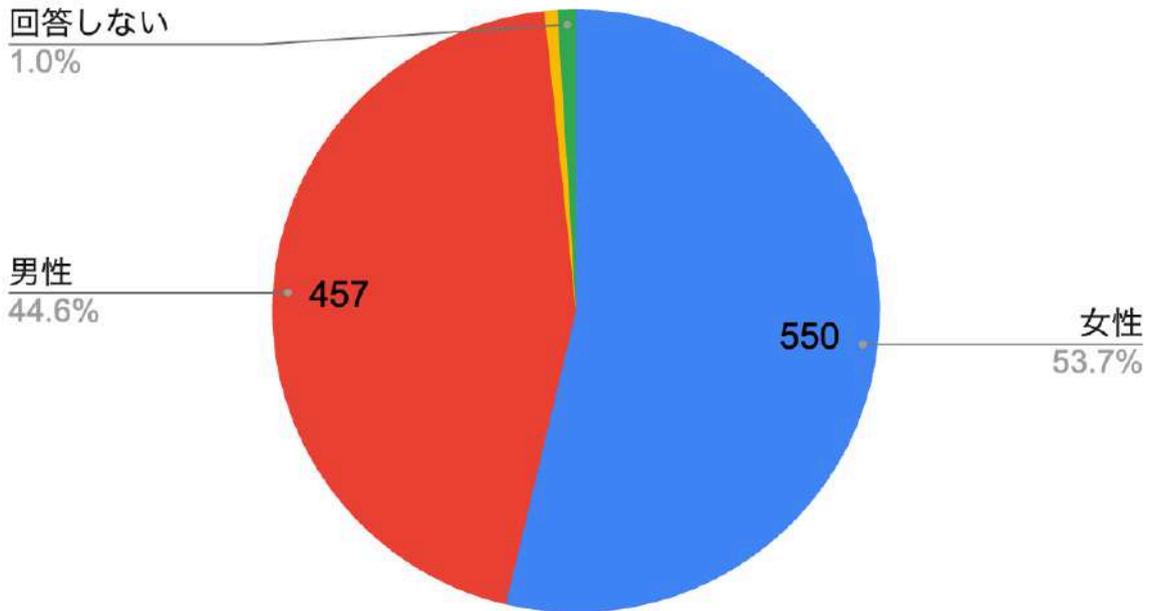
解説：本調査の回答者の年齢構成を見ると、15歳から30歳までの幅広い年代から回答が得られており、特に10代後半から20代を中心とした構成となっている。なかでも、15歳から20歳までは計496件（全体の48.44%）と最も多く、次いで21歳から25歳までが計231件（同22.56%）、26歳から30歳までが計271件（同26.46%）となった。13歳・14歳の回答は計26件（同2.54%）であり、全体としては高校生年代から若手社会人層までを広く含む結果となっている。

また、10代全体では計451件（全体の44.04%）、20代全体では計527件（同51.46%）を占めており、本調査が主として若年層、とりわけ進学・就職・地域との関わり方を模索する世代の実態把握に適した回答構成となっていることがうかがえる。特に、16歳が107件（10.45%）と最も多く、次いで17歳が89件（8.69%）、19歳が86件（8.40%）となっており、高校生から大学生年代の声が厚く集まっている点が特徴である。

さらに、学生世代と社会人世代の双方が一定数含まれていることで、ライフステージごとの意識や地域参加への動機、あるいは行動化を阻む要因の違いを比較しやすい母集団構成となっている。本調査は、次世代を担う若者層の意欲や価値観を把握するだけでなく、進学・就職を経た後の若手世代の実感も含めて捉えることができる点に意義があり、「若者の意欲と行動化の実態把握」という調査目的に資する基礎データであるといえる。

<設問2>性別（必須）

「性別（必須）」のカウント数



性別	件数	割合
男性	457件	44.63%
女性	550件	53.71%
その他	7件	0.68%
回答しない	10件	0.98%
合計	1,024件	100.00%

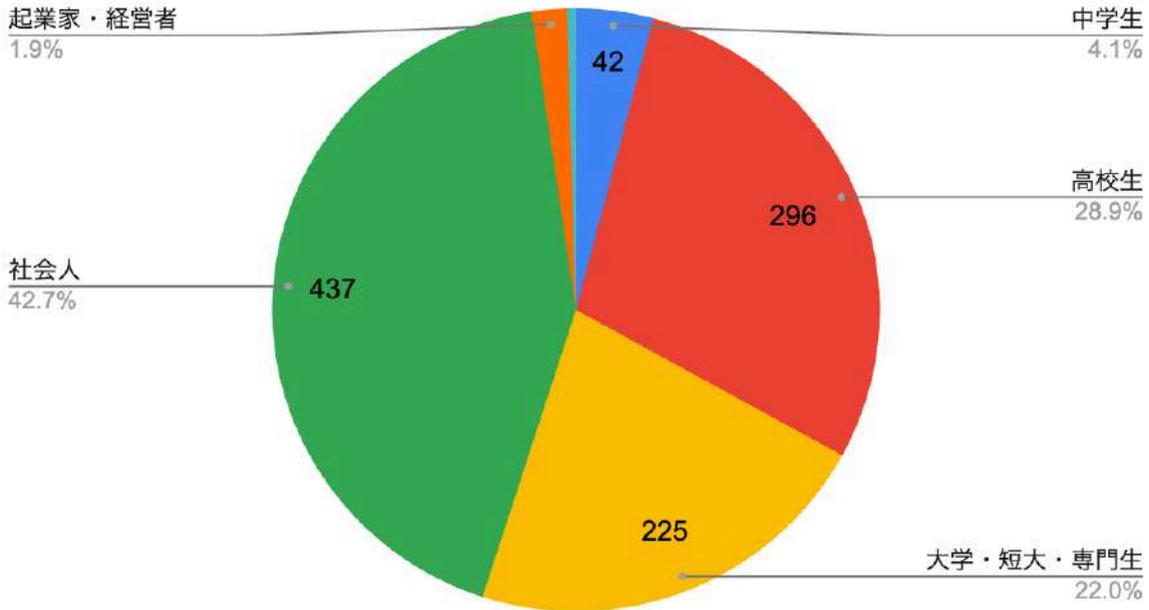
解説：本調査の回答者の性別構成を見ると、女性が550件（全体の53.71%）と最も多く、次いで男性が457件（44.63%）となっている。その他は7件（0.68%）、回答しないは10件（0.98%）であり、回答者全体としては女性がやや多い構成となったものの、男女双方からバランスよく意見を収集できている。

また、「その他」および「回答しない」を合わせた回答は17件（全体の1.66%）であり、性別を二元的に限定しない選択肢や回答を控える選択肢も一定数選ばれていることがわかる。こうした結果は、回答者の属性をできる限り尊重した設計のもとで、多様な立場からの声を把握できていることを示している。

全体として、本調査は男性・女性いずれかに大きく偏ることなく回答が集まっており、若者の意欲や地域への関わりに関する意識を、比較的幅広い性別構成のもとで把握できる基礎データとなっている。今後、設問によっては性別による傾向の違いが見られる可能性もあり、属性別の分析を行う上でも有効な回答構成であるといえる。

<設問3>現在の立場（必須）

件数



立場	件数	割合
中学生	42件	4.10%
高校生	296件	28.91%
大学・短大・専門生	225件	21.97%
社会人	437件	42.68%
起業家・経営者	19件	1.86%
その他	5件	0.49%
合計	1,024件	100.01%

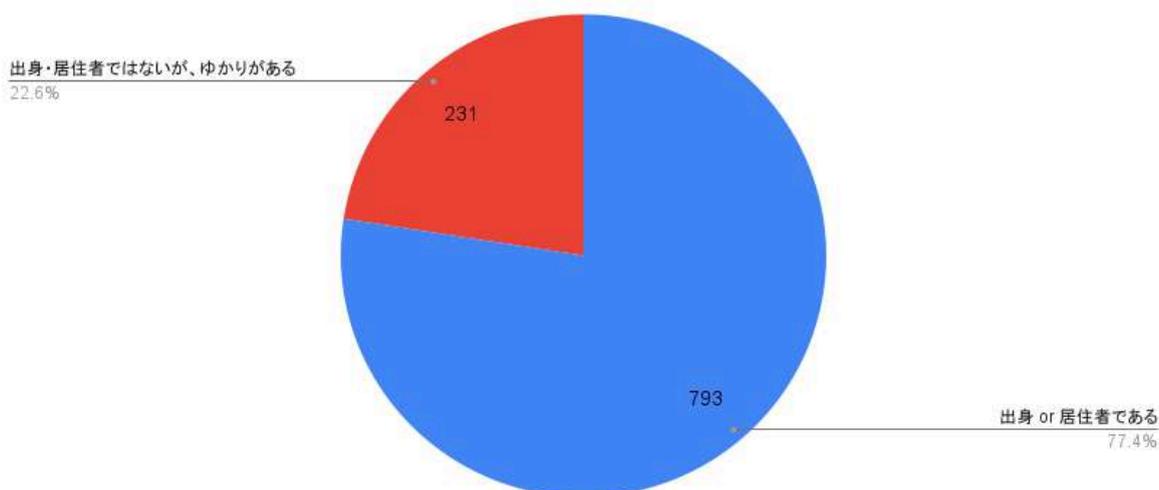
解説：本調査の回答者の現在の立場を見ると、社会人が437件（全体の42.68%）と最も多く、次いで高校生が296件（28.91%）、大学・短大・専門生が225件（21.97%）となっている。中学生は42件（4.10%）、起業家・経営者は19件（1.86%）、その他は5件（0.49%）であり、学生層から就業層まで幅広い立場の回答を得られている。

また、中学生・高校生・大学等学生を合わせた学生層は計563件（全体の54.98%）となっており、回答者の過半数を占めている。一方で、社会人および起業家・経営者を合わせた就業層も計456件（同44.53%）にのぼり、学びの段階にある若者だけでなく、実際に働きながら地域や社会と関わっている世代の意見も十分に反映された構成となっている。

このことから、本調査は進学や将来選択を見据える学生世代の意識と、就業や地域活動の現場にいる若手世代の実感をあわせて把握できる点に特徴がある。特に、高校生・大学生年代と社会人層がともに一定数含まれているため、ライフステージによる意欲や課題認識、地域との関わり方の違いを比較しやすい母集団構成となっており、「若者の意欲と行動化の実態把握」という本調査の目的に照らしても有意義な基礎データであるといえる。

＜設問4＞こおりやま広域圏との関わり（必須）

件数



区分	件数	割合
出身 or 居住者である	793件	77.44%
出身・居住者ではないが、ゆかりがある	231件	22.56%
合計	1,024件	100.00%

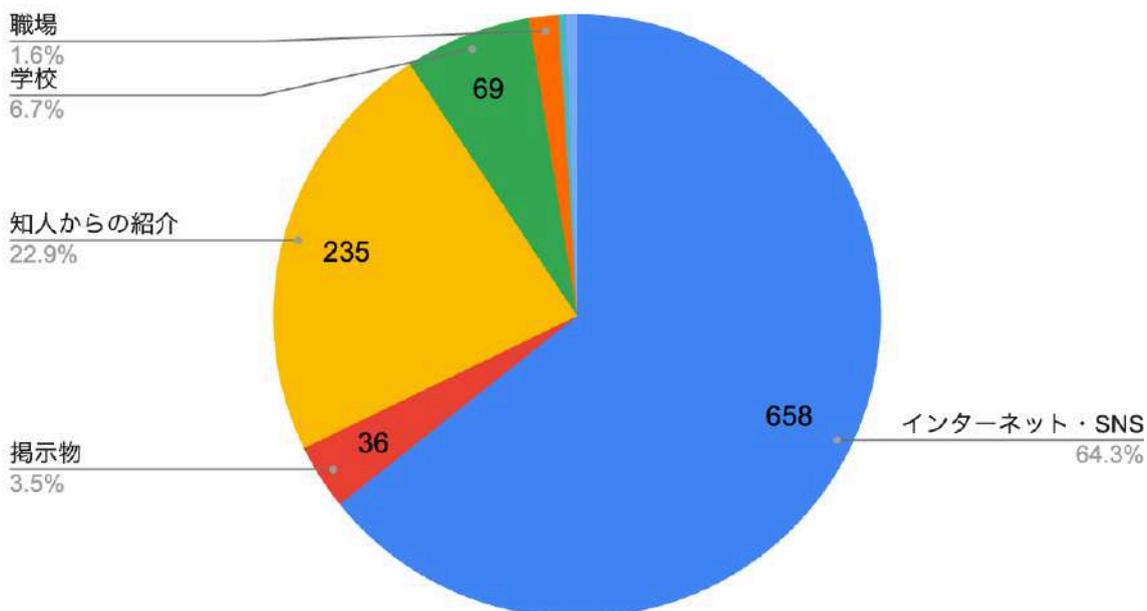
解説：本調査の回答者のうち、「こおりやま広域圏の出身または居住者である」と回答した者は793件（全体の77.44%）となっており、回答者の約8割を占めている。一方で、「出身・居住者ではないが、ゆかりがある」とする回答も231件（22.56%）あり、一定数の関係人口層からも意見を得られていることがわかる。

この結果から、本調査は主としてこおりやま広域圏に生活基盤を持つ若者の実感や意識を反映したものである一方、進学・就職・親族関係・過去の居住経験などを通じて地域と接点を持つ層の声も含んでいる点に特徴がある。単なる居住者調査にとどまらず、地域外から広域圏に関心やつながりを持つ人々の視点も取り込んでいるといえる。

また、出身者・居住者が多数を占めることで、地域での日常的な暮らしや活動実感に根差した回答が中心となっている一方、ゆかりのある層が2割超含まれることで、地域を外側から見た評価や関わり方の可能性も把握しやすい構成となっている。これは、若者の地域定着だけでなく、将来的な関係人口の拡大や多様な関わりしるを検討するうえでも、有効な基礎データであるといえる。

＜設問5＞この調査を知ったきっかけ（必須）

件数



区分	件数	割合
インターネット・SNS	658件	64.26%
掲示物	36件	3.52%
知人・友人などからの紹介	235件	22.95%
学校	69件	6.74%
職場	16件	1.56%
テレビ	4件	0.39%
その他	6件	0.59%
合計	1,024件	100.01%

その他：インターンシップでの案内、メールマガジン、探究の授業、中央公民館利用時など

解説：本調査を知ったきっかけとして最も多かったのは「インターネット・SNS」で、658件（全体の64.26%）と全体の約3分の2を占めた。次いで「知人・友人などからの紹介」が235件（22.95%）となっており、オンライン上の情報接触と対人ネットワークの両方が、回答者への主要な到達経路となっていることがわかる。

一方で、「学校」は69件（6.74%）、「掲示物」は36件（3.52%）、「職場」は16件（1.56%）、「テレビ」は4件（0.39%）であり、従来型の周知手段や所属機関を通じた接触は一定数みられるものの、全体に占める割合は限定的であった。特に若年層を対象とする本調査においては、SNSをはじめとするデジタル媒体が極めて有効な情報接点となっていることが示されている。

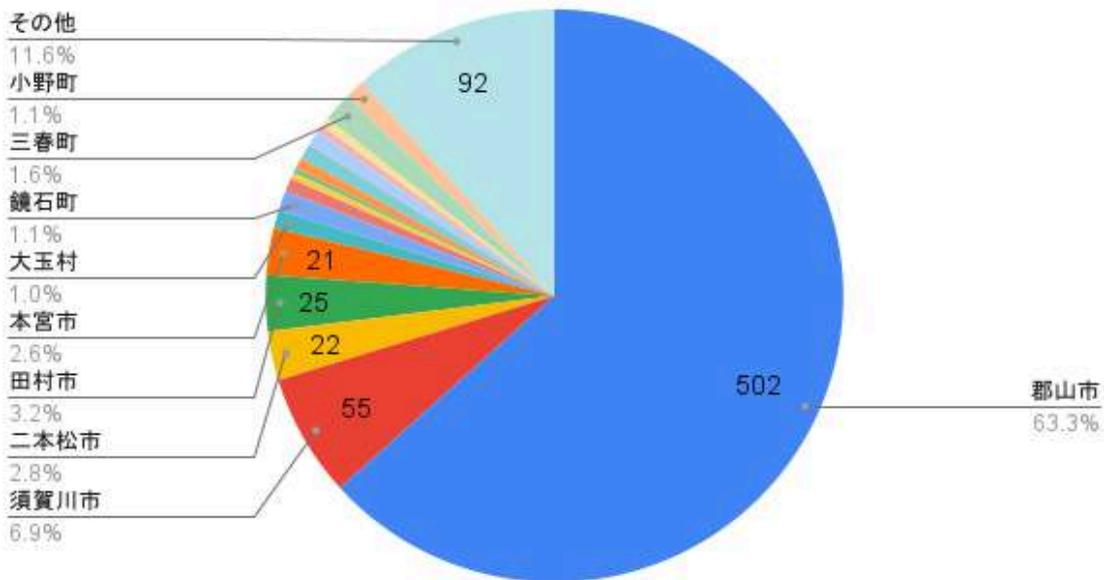
また、「インターネット・SNS」と「知人・友人などからの紹介」を合わせると893件（全体の87.21%）にのぼり、本調査の周知・拡散においては、若者が日常的に接する情報環境や、身近な人間関係を通じた共有が大きな役割を果たしたといえる。今後、若者向けの調査や施策の周知を行う際にも、SNSでの発信強化に加え、口コミや紹介が生まれやすい導線設計を意識することが重要であることがうかがえる。

基本情報：＜設問4＞こおりやま広域圏との関わり（必須）

▶こおりやま広域圏「出身 or 居住者である」と回答した方へ（793名）

＜設問6＞出身地（必須）

件数



市区町村	件数	割合
郡山市	502件	63.30%
須賀川市	55件	6.94%
二本松市	22件	2.77%
田村市	25件	3.15%
本宮市	21件	2.65%
大玉村	8件	1.01%
鏡石町	9件	1.13%
天栄村	6件	0.76%
磐梯町	3件	0.38%
猪苗代町	2件	0.25%
石川町	5件	0.63%
玉川村	7件	0.88%
平田村	7件	0.88%
浅川町	3件	0.38%
古殿町	4件	0.50%
三春町	13件	1.64%
小野町	9件	1.13%
その他	92件	11.60%
合計	793件	99.98%

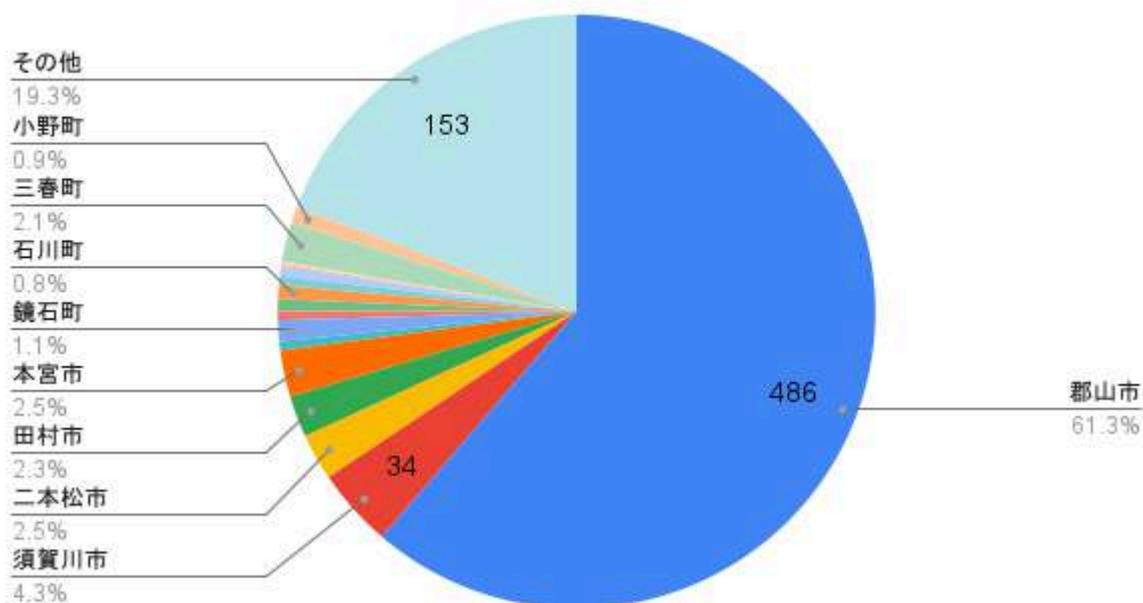
解説：こおりやま広域圏との関わりについて「出身 or 居住者である」と回答した793名の出身地を見ると、「郡山市」が502件（全体の63.30%）と突出して多く、回答者全体の中心を占めている。次いで「その他」が92件（11.60%）、「須賀川市」が55件（6.94%）となっており、郡山市を軸としつつ、周辺市町村や広域圏外も含めた多様な出身層から回答が集まっていることがわかる。

広域圏内の各自治体を見ると、田村市が25件（3.15%）、二本松市が22件（2.77%）、本宮市が21件（2.65%）、三春町が13件（1.64%）と続いており、特定の一部地域に限らず、こおりやま広域圏を構成する複数の市町村から一定数の回答が得られている。一方で、大玉村、鏡石町、天栄村、磐梯町、猪苗代町、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、小野町などからも回答が寄せられており、件数は少数ながらも広域圏全体を視野に入れた調査となっている。

また、「その他」が92件（11.60%）存在していることから、広域圏との関わりを持ちながらも、出身地としては広域圏外の自治体を挙げる回答者も一定数含まれていることがうかがえる。これは、進学や就職、居住経験などを通じて広域圏に関わる層が取り込まれている可能性を示しており、地域の定住人口だけでなく、広域的な人の流れや関係性を踏まえて若者の意識を捉えるうえでも有意義な結果である。

<設問7>居住地（必須）

件数



市区町村	件数	割合
郡山市	486件	61.29%
須賀川市	34件	4.29%
二本松市	20件	2.52%
田村市	18件	2.27%
本宮市	20件	2.52%
大玉村	4件	0.50%
鏡石町	9件	1.13%
天栄村	4件	0.50%
磐梯町	0件	0.00%
猪苗代町	5件	0.63%
石川町	6件	0.76%
玉川村	4件	0.50%
平田村	4件	0.50%
浅川町	1件	0.13%
古殿町	1件	0.13%
三春町	17件	2.14%
小野町	7件	0.88%
その他	153件	19.29%
合計	793件	100.05%

解説：こおりやま広域圏との関わりについて「出身 or 居住者である」と回答した793名の現在の居住地を見ると、「郡山市」が486件（全体の61.29%）と最も多く、回答者の6割以上を占めている。次いで「その他」が153件（19.29%）、「須賀川市」が34件（4.29%）となっており、現在も郡山市を生活拠点としている若者が中心である一方、広域圏外を含む多様な居住地に分散している実態も確認できる。

広域圏内の他自治体では、二本松市・本宮市がそれぞれ20件（各2.52%）、田村市が18件（2.27%）、三春町が17件（2.14%）となっており、郡山市周辺の市町村にも一定数の居住者が分布している。また、鏡石町が9件（1.13%）、小野町が7件（0.88%）、石川町が6件（0.76%）、猪苗代町が5件（0.63%）と続いており、件数には差があるものの、広域圏内の複数地域に回答者が広がっていることがわかる。

一方で、「その他」が153件（19.29%）と約2割を占めている点は特徴的であり、こおりやま広域圏に出身や居住の経歴を持ちながらも、現在は広域圏外に居住している回答者が少なくないことを示している。これは、進学や就職、転居等によって生活拠点を移した後も、広域圏に対して関わりや意識を持ち続けている層が一定数存在することを示唆している。

この結果から、本調査は現在広域圏内に暮らす若者の実感を把握するだけでなく、広域圏外に住みながらも地域にゆかりを持つ若者の視点も一定程度含んでいるといえる。

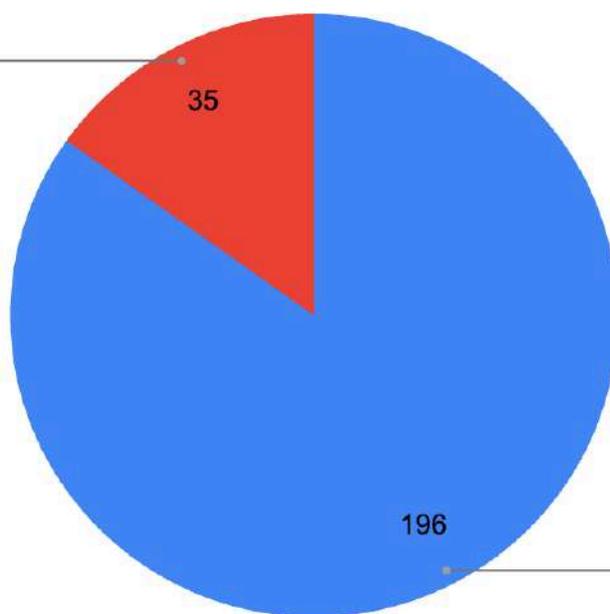
基本情報：＜設問４＞こおりやま広域圏との関わり（必須）

▶こおりやま広域圏「出身・居住者ではないが、ゆかりがある」と回答した方へ
（231名）

＜設問８＞出身地（必須）

件数

福島県外
15.2%



福島県内
84.8%

市区町村	件数	割合
福島県内	196件	84.85%
福島県外	35件	15.15%
合計	231件	100.00%

解説：こおりやま広域圏との関わりについて「出身・居住者ではないが、ゆかりがある」と回答した231名の出身地を見ると、「福島県内」が196件（全体の84.85%）と大多数を占めており、「福島県外」は35件（15.15%）であった。これにより、広域圏の出身者・居住者ではない場合でも、多くは福島県内の他地域にルーツを持つ層で構成されていることがわかる。

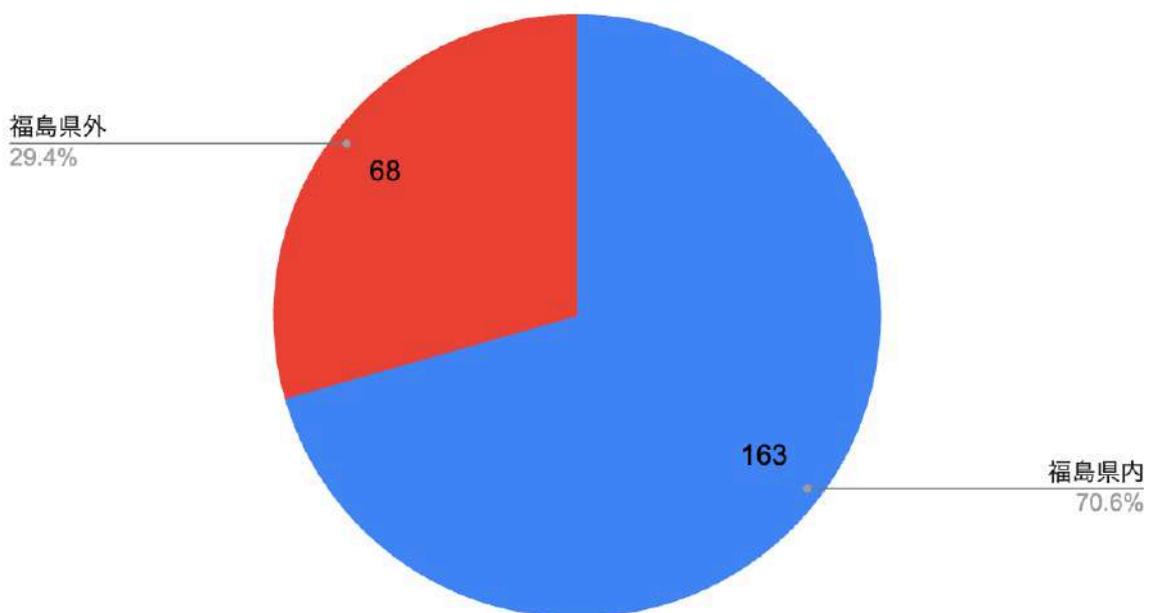
この結果は、こおりやま広域圏に対する「ゆかり」が、県外からの一時的・偶発的な接点だけではなく、同じ福島県内に暮らす、あるいは県内出身者としての地理的・心理的な近さの中で形成されていることを示している。すなわち、広域圏との関係性は、広域圏内外をまたぐ県内ネットワークの中で育まれている側面が強いと考えられる。

一方で、福島県外出身者も35件（15.15%）存在しており、進学、就職、親族関係、友人関係、過去の居住経験などを通じて、県外から広域圏と接点を持つ層も一定数含まれている。したがって、本調査における「ゆかり」のあり方は、県内を中心としつつも、県外にまで広がる多様な関係性を含んでいるといえる。

全体として、本設問の結果からは、こおりやま広域圏に対する関係人口の中心が福島県内出身者によって構成されていることが明らかとなった。これは、今後広域圏との継続的な関わりや参加を促進する施策を検討するうえで、まずは県内他地域とのつながりをどう活かすかが重要な視点となることを示唆している。

<設問9>居住地（必須）

件数



市区町村	件数	割合
福島県内	163件	70.56%
福島県外	68件	29.44%
合計	231件	100.00%

解説：こおりやま広域圏との関わりについて「出身・居住者ではないが、ゆかりがある」と回答した231名の現在の居住地を見ると、「福島県内」が163件（全体の70.56%）、「福島県外」が68件（29.44%）となっており、現在の居住地としても福島県内が多数を占めていることがわかる。ただし、出身地では福島県内が84.85%であったのに対し、居住地では70.56%まで低下しており、県外居住者の割合が相対的に高まっている点が特徴である。

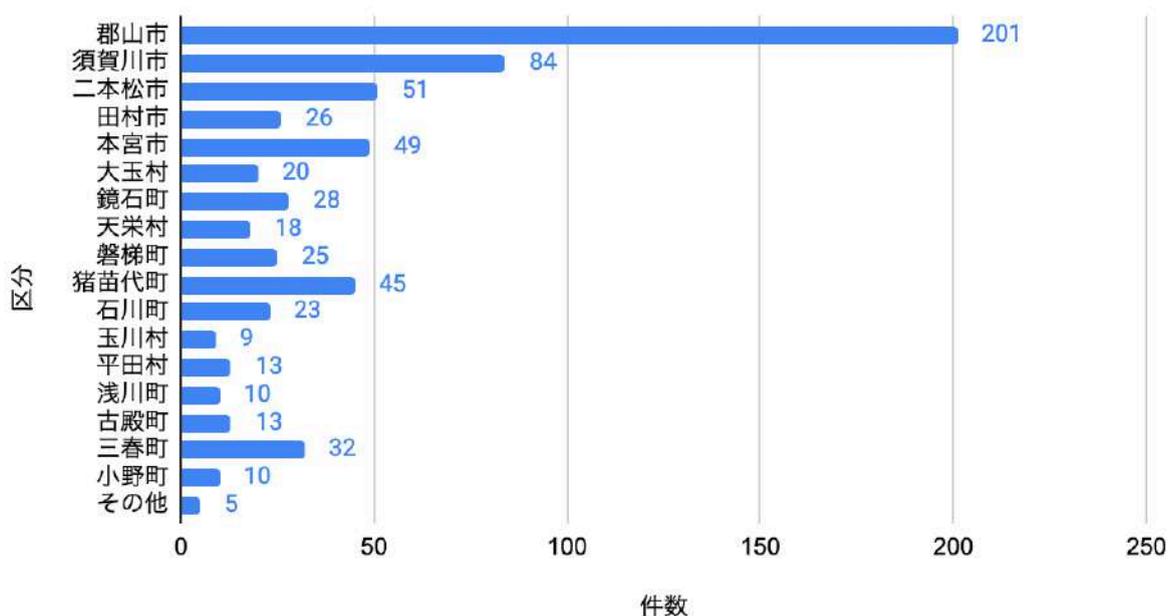
この結果から、こおりやま広域圏に「ゆかりがある」層の多くは、もともと福島県内に出身を持ちながら、進学や就職、転居等を経て現在は県外で生活している可能性がうかがえる。すなわち、広域圏との関係性は、現在の居住地にかかわらず維持されており、地域外に住みながらも広域圏に関心や接点を持ち続けている層が一定数存在していることを示している。

また、県内居住者が約7割を占めていることから、関係人口の中心は引き続き福島県内にあるといえる一方、県外居住者も約3割に達していることから、こおりやま広域圏とのつながりが県域を越えて広がっている実態も確認できる。これは、広域圏に関する施策や情報発信を検討する際、地域内の若者だけでなく、進学・就職等で県外に移った若者に対しても関わり続けてもらう視点が重要であることを示唆している。

全体として、本設問の結果は、こおりやま広域圏に対する「ゆかり」が現在の居住地に限定されるものではなく、移動やライフステージの変化を経ても継続しうる関係性であることを示している。今後、関係人口の拡大やUターン・関与機会の創出を考えるうえで、こうした県内外に広がるゆかり層の存在は重要な基礎データであるといえる。

<設問10>こおりやま広域圏内で関わりのある地域（複数選択可能）

件数と区分



市区町村	件数	割合
郡山市	201件	87.01%
須賀川市	84件	36.36%
二本松市	51件	22.08%
田村市	26件	11.26%
本宮市	49件	21.21%
大玉村	20件	8.66%
鏡石町	28件	12.12%
天栄村	18件	7.79%
磐梯町	25件	10.82%
猪苗代町	45件	19.48%
石川町	23件	9.96%
玉川村	9件	3.90%
平田村	13件	5.63%
浅川町	10件	4.33%
古殿町	13件	5.63%
三春町	32件	13.85%
小野町	10件	4.33%
その他	5件	2.16%
合計	231件	100.00%

解説：こおりやま広域圏との関わりについて「出身・居住者ではないが、ゆかりがある」と回答した231名に、広域圏内で関わりのある地域を尋ねたところ、「郡山市」が201件（対象者の87.01%）と突出して多く、ゆかりの中心が郡山市に集まっていることが明らかとなった。次いで「須賀川市」が84件（36.36%）、「二本松市」が51件（22.08%）、「本宮市」が49件（21.21%）、「猪苗代町」が45件（19.48%）となっており、郡山市を起点としつつ、周辺自治体にも幅広く関係が広がっていることがわかる。

また、三春町が32件（13.85%）、鏡石町が28件（12.12%）、田村市が26件（11.26%）、磐梯町が25件（10.82%）、石川町が23件（9.96%）と続いており、こおりやま広域圏内の複数地域が一定の接点を持つ対象として認識されている。さらに、大玉村、天栄村、平田村、古殿町、浅川町、小野町、玉川村などにも回答が分布しており、件数の多寡はあるものの、関わりの範囲は広域圏全体に及んでいる。

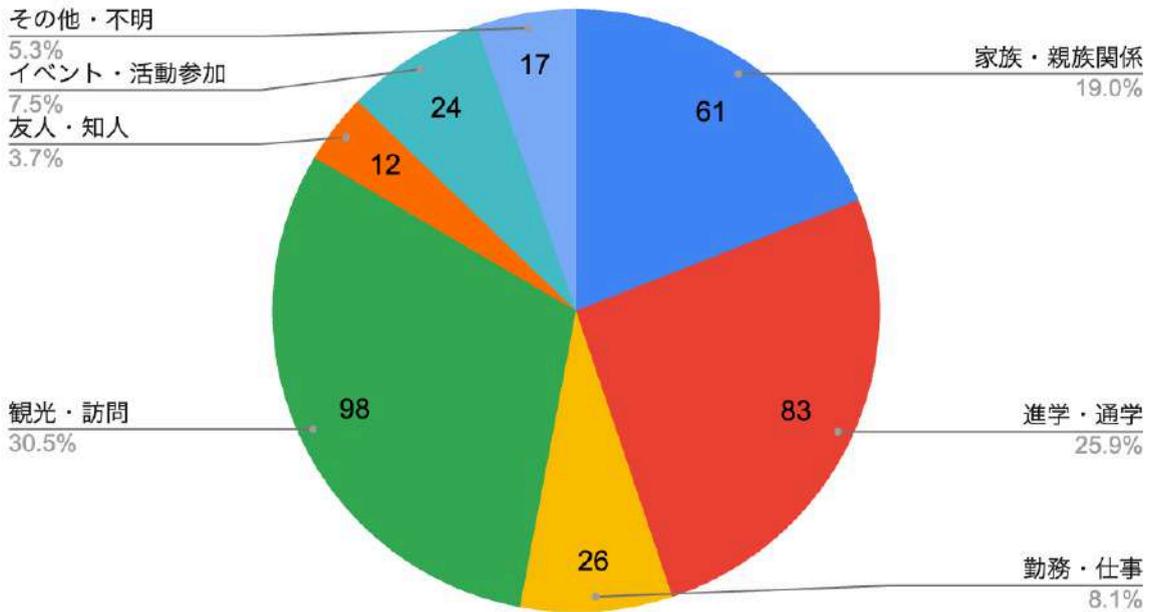
この結果から、「ゆかりがある」層にとってのこおりやま広域圏は、単一の地域との関係にとどまらず、複数の市町村にまたがる面的なつながりとして認識されていることがうかがえる。特に郡山市は、関わりのある地域として約9割近くに選ばれており、広域圏における中核的な接点・交流拠点として強い存在感を持っているといえる。

一方で、須賀川市や二本松市、本宮市、猪苗代町などにも比較的高い割合で回答が集まっていることから、広域圏外の人々が関係を持つ対象は郡山市のみに集中しているわけではなく、観光、通学、通勤、友人・知人とのつながり、イベント参加などを通じて、複数地域に接点が生み出されている可能性が考えられる。今後、関係人口の拡大や広域圏との継続的な関わりを促進するうえでは、郡山市を中心にしながらも、周辺市町村を含めた広域的な関係性の設計が重要であることを示す結果である。

<設問11>上記で回答した地域とは、どのような繋がりがありますか？（必須）

例) 例) 訪れたことがある、親戚が住んでいる、大学で通っていた、など

件数



繋がり	件数
家族・親族関係	61件
進学・通学	83件
勤務・仕事	26件
観光・訪問	98件
友人・知人	12件
イベント・活動参加	24件
その他・不明	17件

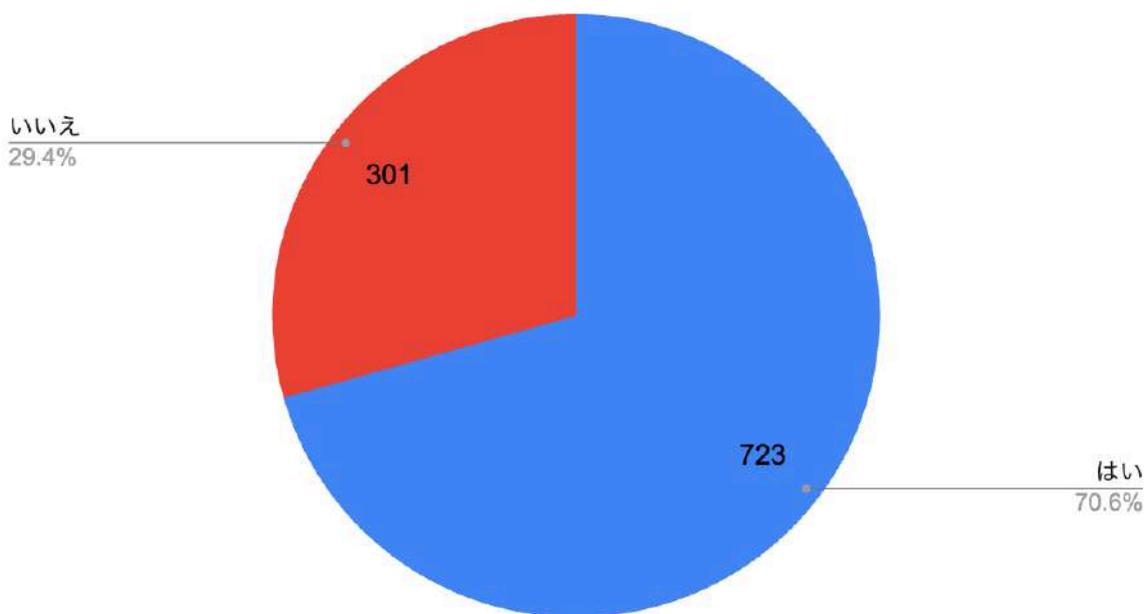
解説：「ゆかりがある」と回答した人に、こおりやま広域圏内の地域とのつながり方を尋ねたところ、最も多かったのは「観光・訪問」の98件であり、次いで「進学・通学」が83件、「家族・親族関係」が61件となった。これにより、こおりやま広域圏との関わりは、日常的な生活基盤に限らず、学びや人間関係、訪問経験など多様な接点によって形成されていることがわかる。

また、「勤務・仕事」が26件、「イベント・活動参加」が24件、「友人・知人」が12件となっており、地域とのつながりは私的な関係だけでなく、仕事や地域活動などの社会的な関わりにも広がっている。全体として、こおりやま広域圏に対する「ゆかり」は、居住や出身に限らない多面的な関係性の上に成り立っていることがうかがえる。

イ.地域との接点

<設問12>地域活動に参加したことはありますか？（必須）

件数



回答	件数	割合
はい	723件	70.61%
いいえ	301件	29.39%
合計	1,024件	100.00%

解説：地域活動への参加経験については、「はい」が723件（全体の70.61%）、「いいえ」が301件（29.39%）となり、回答者の約7割が何らかの形で地域活動に参加した経験を有していることがわかった。若者を対象とした調査でありながら、多くの回答者がすでに地域との接点を持っている点は特徴的である。

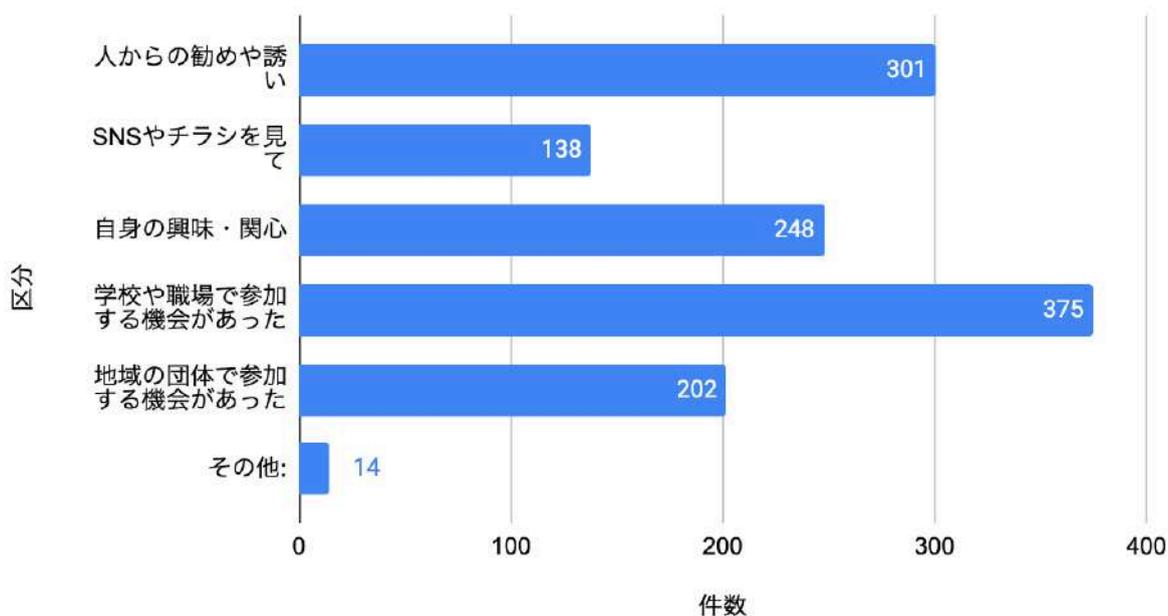
一方で、約3割は参加経験がないと回答しており、地域活動への関心や機会、参加のしやすさには個人差があることもうかがえる。今後は、すでに参加経験のある層の継続的な関与を促すとともに、未経験層が参加しやすくなるきっかけや導線を整えることが重要である。

地域との接点<設問1>地域活動に参加したことはありますか？

▶ 「はい」と回答した方へ（723名）

<設問13>参加したきっかけは何ですか？（複数回答可）

件数と区分



回答	件数
人から勧められた・誘われた (親や先生・知人・友人・先輩・後輩)	301件
SNSやチラシを見て	138件
自身の興味・関心	248件
学校や職場で参加する機会があった	375件
地域の団体（町内会など）で参加する 機会があった	202件
その他	14件

■ 「その他」の主な内容（例）

- ・ 家族の手伝い
- ・ 祖父母経由
- ・ 仕事として参加
- ・ 自分が運営側
- ・ 地域おこし協力隊として
- ・ 子ども食堂を自ら立ち上げ
- ・ 社会福祉協議会からの紹介

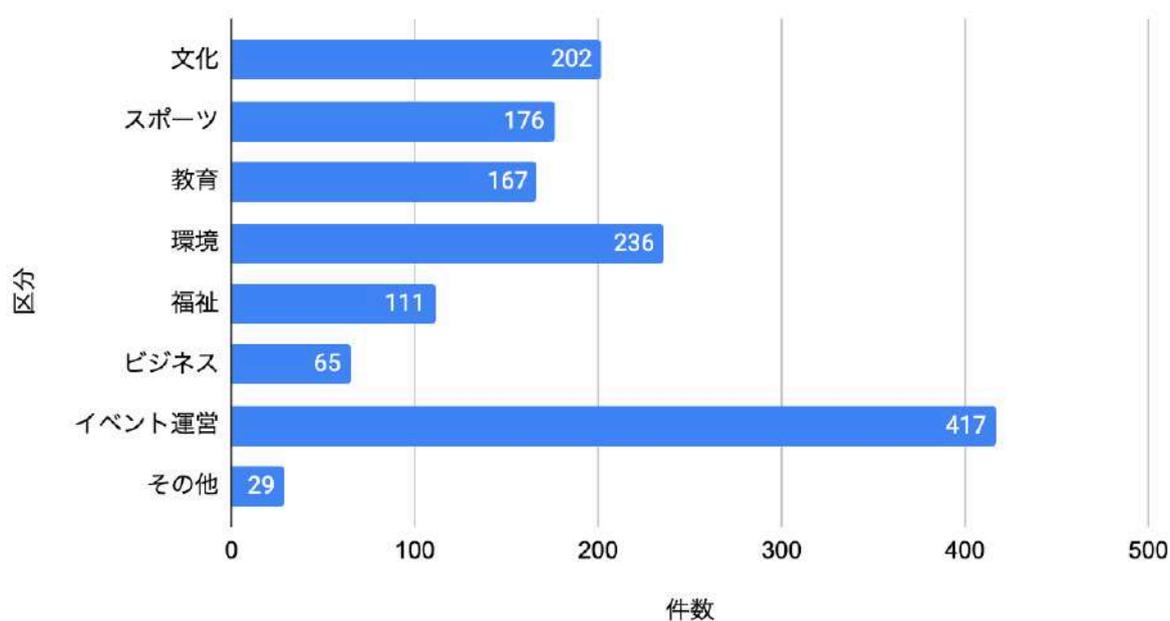
解説：地域活動に参加したきっかけとして最も多かったのは「学校や職場で参加する機会があった」の375件であり、次いで「人から勧められた・誘われた」が301件、「自身の興味・関心」が248件となった。これにより、地域活動への参加は、個人の自発的な関心だけでなく、学校・職場といった所属先や、身近な人からの声かけによって促される傾向が強いことがわかる。

また、「地域の団体（町内会など）で参加する機会があった」は202件、「SNSやチラシを見て」は138件となっており、地域内の既存コミュニティや情報発信も一定の参加機会を生み出している。全体として、若者の地域活動参加には、本人の意欲に加え、「誘われること」「参加の場があらかじめ用意されていること」が大きく影響しているといえる。

<設問14>どんなジャンルの活動でしたか？（複数選択可）

- ・文化（例：合唱、茶道、美術展など）
- ・スポーツ（例：サッカー、バスケットボール、マラソンなど）
- ・教育（例：探究活動、読書会、塾の運営など）
- ・環境（例：森林保全、ゴミ拾い、エコキャンペーンなど）
- ・福祉（例：高齢者支援、子ども食堂、障がい者サポートなど）
- ・ビジネス（例：起業、商品開発、地域ブランドづくりなど）
- ・イベント運営（例：地域祭り、コンサート、マルシェなど）

件数と区分



回答	件数
文化	202件
スポーツ	176件
教育	167件
環境	236件
福祉	111件
ビジネス	65件
イベント運営	417件
その他	29件

■ 「その他」の主な内容（例）

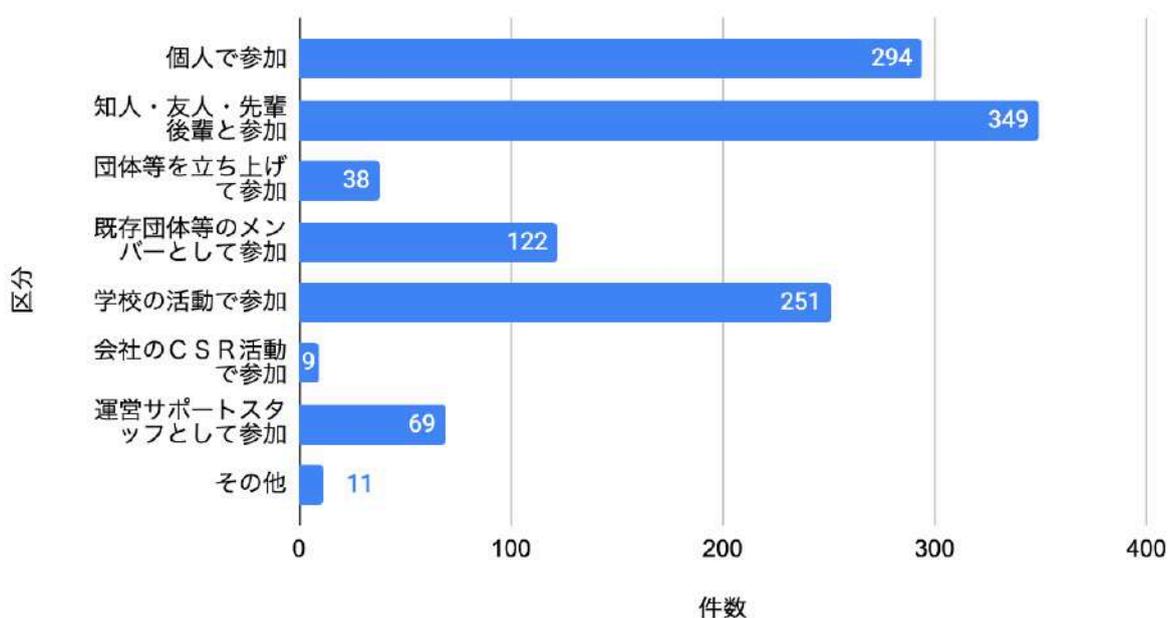
- ・ 防災、復興支援活動（例：震災復興支援、水害復旧活動 など）
- ・ 地域のお祭りへの参加
- ・ 就労支援活動への参加
- ・ 選挙啓発などの公共活動
- ・ 手話活動

解説：参加した地域活動のジャンルとして最も多かったのは「イベント運営」の417件であり、次いで「環境」が236件、「文化」が202件、「スポーツ」が176件、「教育」が167件となった。若者の地域活動参加は、祭りやマルシェなどの運営補助といった参加しやすい活動を中心に、環境保全や文化・スポーツ、教育分野まで幅広く広がっていることがわかる。

一方で、「福祉」は111件、「ビジネス」は65件であり、比較的専門性や継続性が求められる分野への参加はやや限定的であった。全体として、若者の地域活動は、まず関わりやすいイベント型の活動を入口としながら、多様なテーマへ接点が広がっている状況がうかがえる。

<設問15>その活動には、どのような立場で参加しましたか？（複数選択可）

件数と区分



回答	件数
個人で参加	294件
知人・友人・先輩後輩と参加	349件
団体等を立ち上げて参加	38件
既存団体等のメンバーとして参加	122件
学校の活動(探究事業・サークル・ゼミ等)の一環で参加	251件
会社のCSR活動として参加	9件
運営サポートスタッフとして参加	69件
その他	11件

■ 「その他」の主な内容（例）

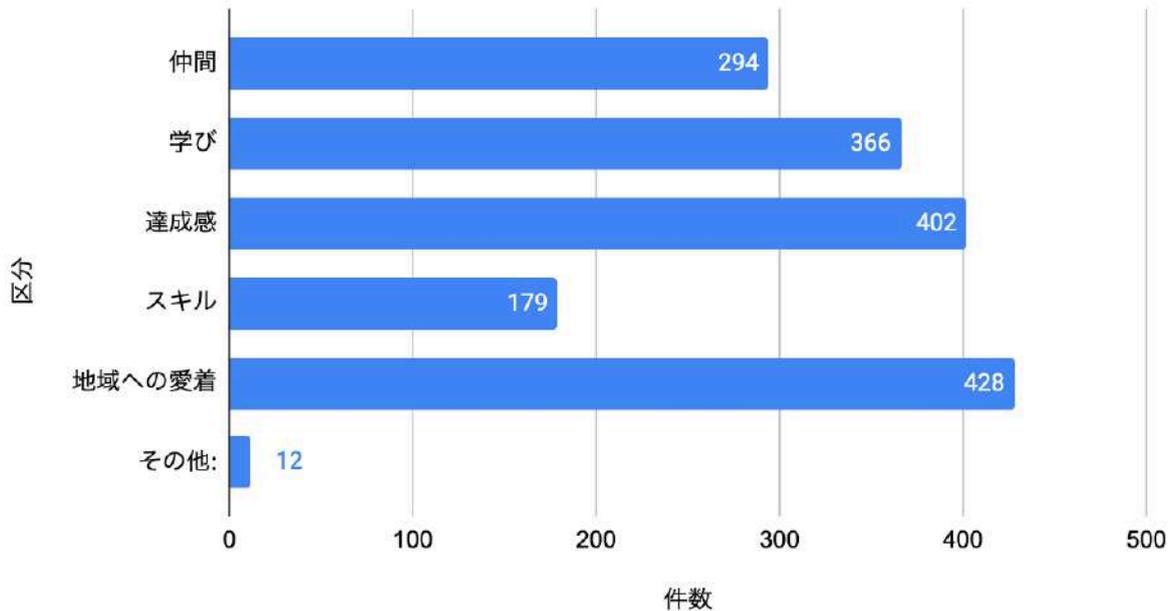
- ・ 家族と参加
- ・ 会社の事業として参加
- ・ 役場職員として参加
- ・ 学校実習の一環として参加共活動
- ・ 手話活動

解説：活動への参加形態として最も多かったのは「知人・友人・先輩後輩と参加」の349件であり、次いで「個人で参加」が294件、「学校の活動の一環で参加」が251件となった。若者の地域活動は、個人の意思による参加に加え、身近な人とのつながりや学校を通じた参加が大きな入口となっていることがわかる。

また、「既存団体等のメンバーとして参加」は122件、「運営サポートスタッフとして参加」は69件であり、一定数は継続的・組織的な関わり方もしている。一方で、「団体等を立ち上げて参加」は38件、「会社のCSR活動として参加」は9件にとどまり、自ら活動を立ち上げたり、企業活動の一環として参加したりするケースは比較的少数であった。全体として、若者の地域活動は、まず身近な人間関係や学校を通じて参加し、その中で徐々に多様な関わり方へ広がっている様子が見えてくる。

<設問16>その経験から得られたものは？（複数選択可）

件数と区分



回答	件数
仲間	294件
学び	366件
達成感	402件
スキル	179件
地域への愛着	428件
その他	12件

■ 「その他」の主な内容（例）

- ・ 家族との思い出
- ・ 地域住民とのつながり
- ・ コミュニケーション能力の向上
- ・ 楽しさ・充実感
- ・ 地域課題への理解

解説：地域活動の経験から得られたものとして最も多かったのは「地域への愛着」の428件であり、次いで「達成感」が402件、「学び」が366件、「仲間」が294件となった。若者にとって地域活動は、単なる参加経験にとどまらず、地域への親しみや自分自身の成長実感につながる機会となっていることがわかる。

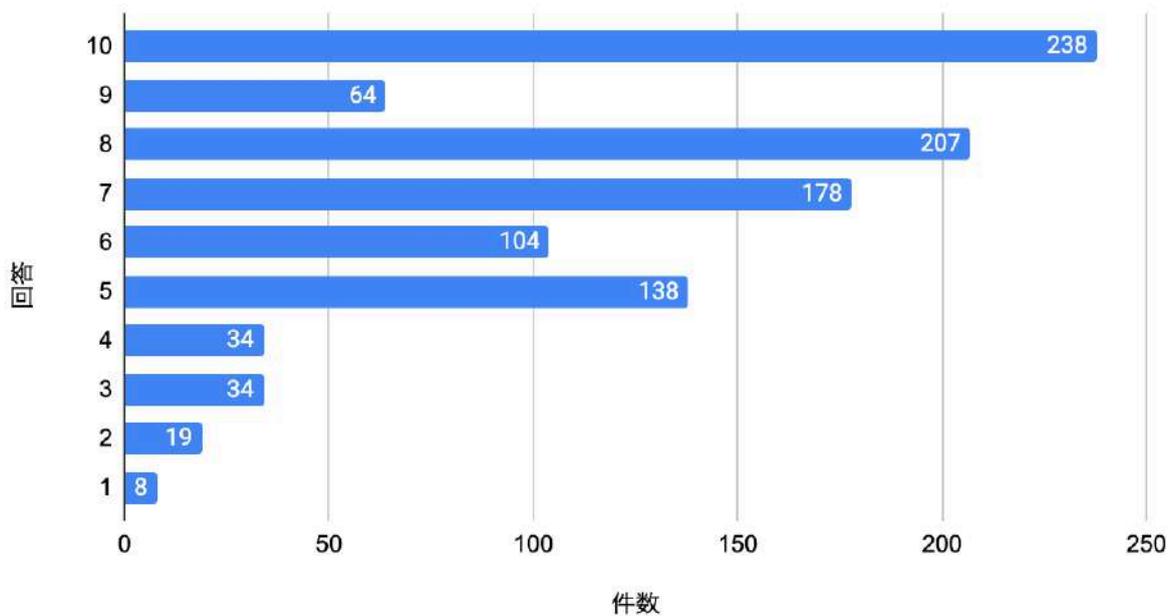
また、「スキル」も179件挙がっており、活動を通じて実践的な力を身につけている様子もうかがえる。全体として、地域活動は人とのつながりや学びを得る場であると同時に、地域への愛着を深め、前向きな実感を育む機会として機能しているといえる。

ウ.地域への関心度

＜設問17＞「現在住んでいるこおりやま広域圏の地域」または、「ゆかりのあるこおりやま広域圏の地域」に関わりたい気持ちはどのくらいありますか？（必須）

1：全くない～10：とてもある

件数と回答



回答	件数	割合
10	238件	23.24%
9	64件	6.25%
8	207件	20.21%
7	178件	17.38%
6	104件	10.16%
5	138件	13.48%
4	34件	3.32%
3	34件	3.32%
2	19件	1.86%
1	8件	0.78%
合計	1,024件	100.00%

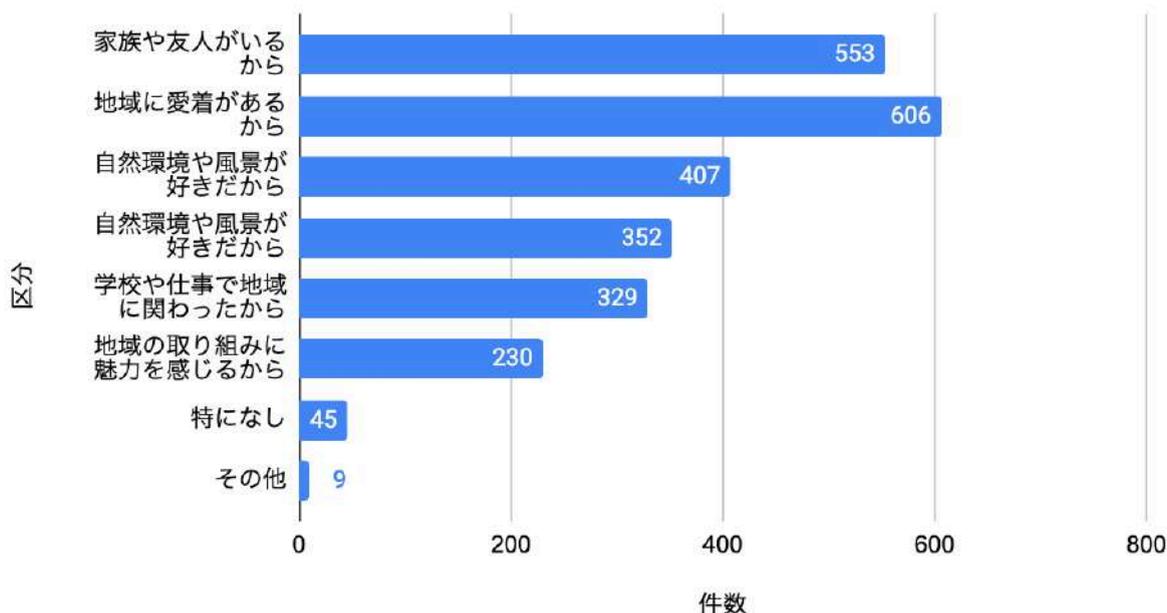
平均値：7.28 | 中央値：7

解説：こおりやま広域圏の地域に関わりたい気持ちについては、平均値が7.28、中央値が7となっており、全体として関心度は比較的高い水準にある。特に「10」が238件（23.24%）で最も多く、次いで「8」が207件（20.21%）、「7」が178件（17.38%）となっており、前向きな意向を持つ回答者が多いことがわかる。

実際に「7～10」の高い関心層を合計すると687件で、全体の67.09%を占めている。一方で、「1～4」の低関心層は95件（9.28%）にとどまっており、地域との関わりに消極的な層は限定的である。全体として、若者の多くが地域に対して一定以上の関心や関わりたい意欲を持っており、その思いを実際の行動につなげるための機会づくりが重要であることがうかがえる。

＜設問 18＞上記の回答理由について、「プラスの要因」を教えてください。（複数回答可）

件数と区分



区分	件数
家族や友人がいるから	553件
地域に愛着があるから	606件
自然環境や風景が好きだから	407件
食べ物や文化が魅力的だから	352件
学校や仕事などで地域に関わった経験があるから	329件
地域の活動や取り組みに魅力を感じるから	230件
特になし	45件
その他	9件

■ 「その他」の主な内容（例）

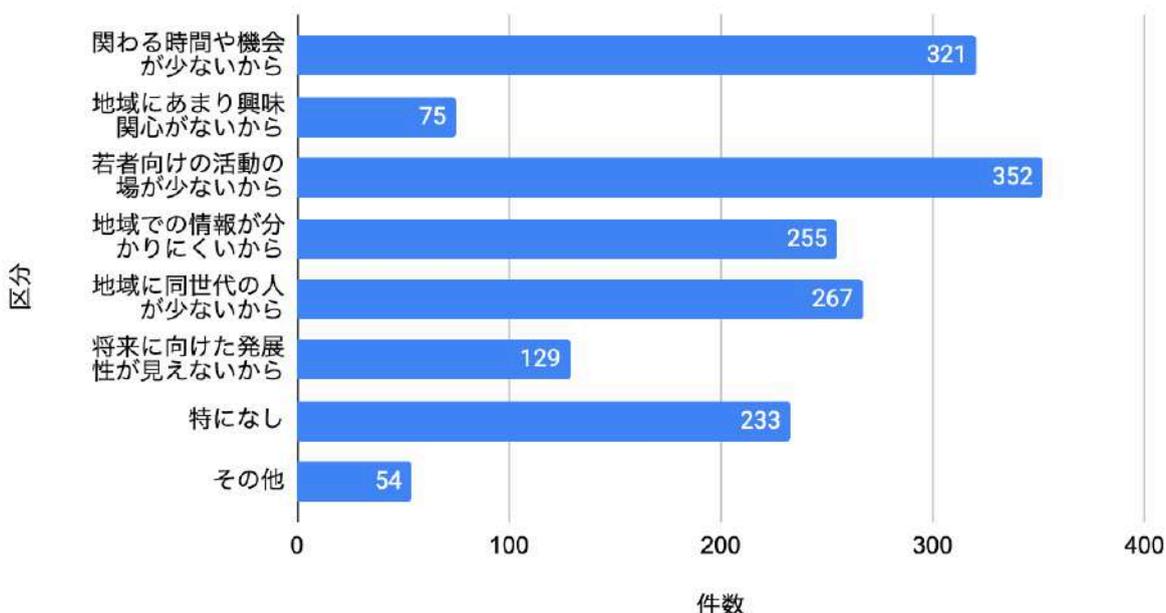
- ・もっと福島について、福島の人々について知りたいから
- ・将来この地域で働きたいという思い
- ・地域をより良くしたいという使命感
- ・ふるさとへの誇り・安心感
- ・地域の発展や活性化への期待
- ・地元貢献したいという意欲
- ・地域の課題解決への関心

解説：地域に関わりたい気持ちが高めるプラスの要因としては、「地域に愛着があるから」が606件、「家族や友人がいるから」が553件と特に多く、人とのつながりや地域への心理的な親しみが大きな支えとなっていることがわかる。若者の地域への関心は、制度や情報だけでなく、身近な人間関係や暮らしの実感に根ざして形成されているといえる。

また、「自然環境や風景が好きだから」が407件、「食べ物や文化が魅力的だから」が338件、「学校や仕事などで地域に関わった経験があるから」が329件と続いており、地域資源の魅力や実際の関与経験も、前向きな意識を後押しする要因となっている。全体として、地域への関心は、人的なつながり、愛着、地域資源の魅力、そして実体験の積み重ねによって支えられていることがうかがえる。

＜設問19＞上記の回答理由について、「マイナスの要因」を教えてください。（複数回答可）

件数と区分



区分	件数
関わる時間や機会が少ないから	321件
地域にあまり興味関心がないから	75件
若者向けの活動の場が少ないから	351件
地域での活動情報が分かりにくいから	255件
地域に同世代の人が少ないから	267件
将来に向けた発展性が見えないから	129件
特になし	233件
その他	54件

■ 「その他」の主な内容（例）

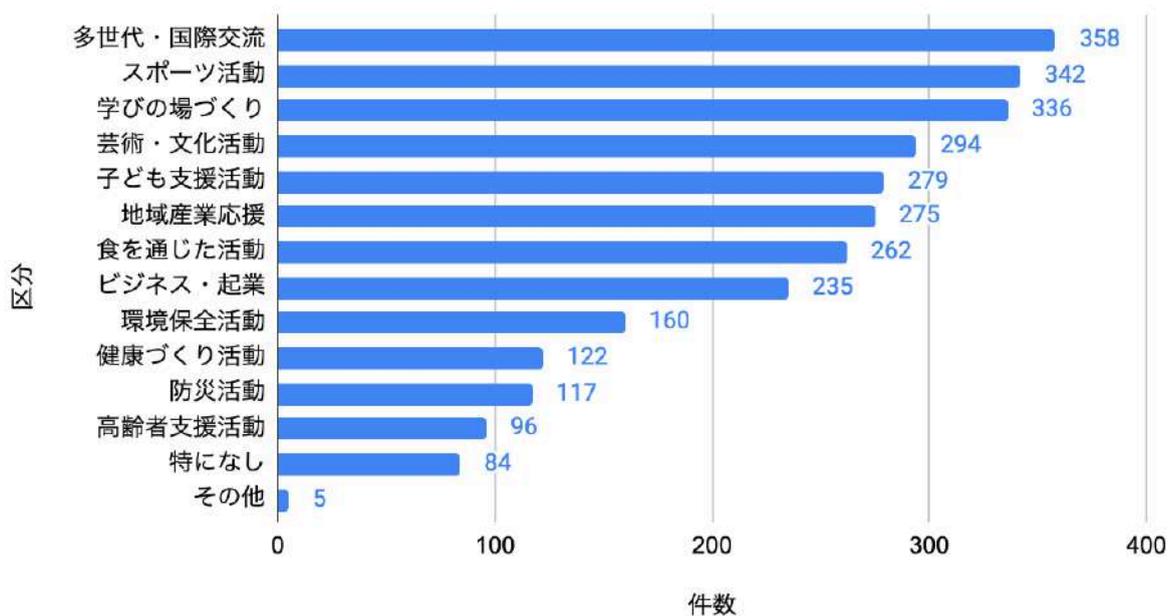
- ・進学や就職で地域を離れている
- ・交通の便が悪い
- ・人間関係が閉鎖的に感じる
- ・自分の生活で精一杯
- ・地域に戻る予定がない
- ・関わり方が分からない

解説：地域に関わるうえでのマイナス要因としては、「若者向けの活動の場が少ないから」が352件で最も多く、次いで「関わる時間や機会が少ないから」が321件、「地域に同世代の人が少ないから」が267件、「地域での活動情報が分かりにくいから」が255件となった。若者の地域参加を妨げている要因は、関心の有無そのものよりも、参加できる場や情報、同世代とのつながりといった環境面にあることがうかがえる。

一方で、「地域にあまり興味関心がないから」は75件にとどまっており、そもそもの無関心が主因というよりは、関わりたい気持ちがあっても行動に移しにくい状況が存在していると考えられる。また、「特になし」も233件あり、全員が強い障壁を感じているわけではないことも読み取れる。全体として、若者の地域参加を促進するためには、参加しやすい場づくり、情報発信の改善、同世代がつながれる機会の創出が重要である。

＜設問20＞地域でやってみたい／参加してみたい活動があれば、自由に教えてください。（複数選択可能）

件数と区分



区分	件数
多世代・国際交流（イベント／コミュニティなど）	358件
スポーツ活動（大会運営／サークルづくりなど）	342件
学びの場づくり（勉強会／読書会／探究カフェなど）	336件
芸術・文化活動（ワークショップ／展示企画など）	294件
子ども支援活動（遊び場づくり／学習サポートなど）	279件
地域産業応援（マルシェ／観光PRなど）	275件
食を通じた活動（料理教室／食文化体験など）	262件
ビジネス・起業（イベント／コミュニティなど）	235件
環境保全活動（清掃／植樹など）	160件
健康づくり活動（運動教室／食事改善ワークショップなど）	122件
防災活動（避難訓練／防災マップ作成など）	117件
高齢者支援活動（買い物・生活支援など）	96件
特になし	84件
その他	5件

■ 「その他」の主な内容（例）

- ・ 学生が主体となる場づくり／居場所づくり
- ・ 障がい者支援を含む福祉関連イベント
- ・ フォトウォークなどのまち歩き企画
- ・ 地域文化継承に向けた制度づくりの提案

解説：地域でやってみたい・参加してみたい活動としては、「多世代・国際交流」が358件で最も多く、次いで「スポーツ活動」が342件、「学びの場づくり」が336件となった。若者は、単なる参加にとどまらず、人とつながる場や、新しい学び・交流が生まれる場に高い関心を持っていることがわかる。

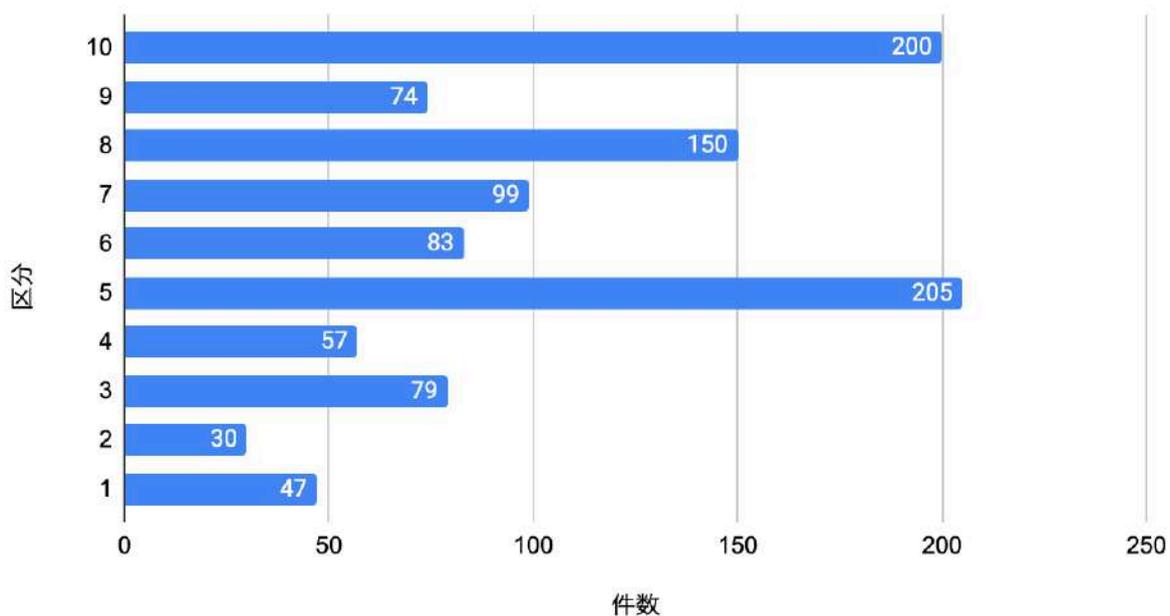
また、「芸術・文化活動」294件、「子ども支援活動」279件、「地域産業応援」275件、「食を通じた活動」262件と続いており、地域の魅力発信や誰かの役に立つ実感を得られる活動にも関心が集まっている。一方で、「ビジネス・起業」も235件あり、若者の中には地域課題を自らの挑戦や実践につなげたい意欲も一定数見られる。

全体として、若者が地域で求めているのは、交流、学び、表現、支援、挑戦といった多様な関わり方であり、特定の分野に偏るのではなく、自分らしく参加できる選択肢の幅広さが重要であることがうかがえる。

<設問 2 1 > 将来も現在お住まいの地域に住み続けたいと思いますか？（必須）

1：全く思わない～10：とても思う

件数 と 区分



回答	件数	割合
10	200件	19.53%
9	74件	7.23%
8	150件	14.65%
7	99件	9.67%
6	83件	8.11%
5	205件	20.02%
4	57件	5.57%
3	79件	7.71%
2	30件	2.93%
1	47件	4.59%
合計	1,024件	100.01%

平均値：6.5 | 中央値：7

解説：将来も現在住んでいる地域に住み続けたい気持ちについては、平均値が6.5、中央値が7となっており、全体として一定の定住意向は見られるものの、強い意向と慎重な意向が混在している状況がうかがえる。最も多かったのは「5」の205件（20.02%）で、次いで「10」が200件（19.53%）、「8」が150件（14.65%）となっており、地域に対する思いを持ちながらも、将来の居住についてはまだ判断を留保している層も少なくない。

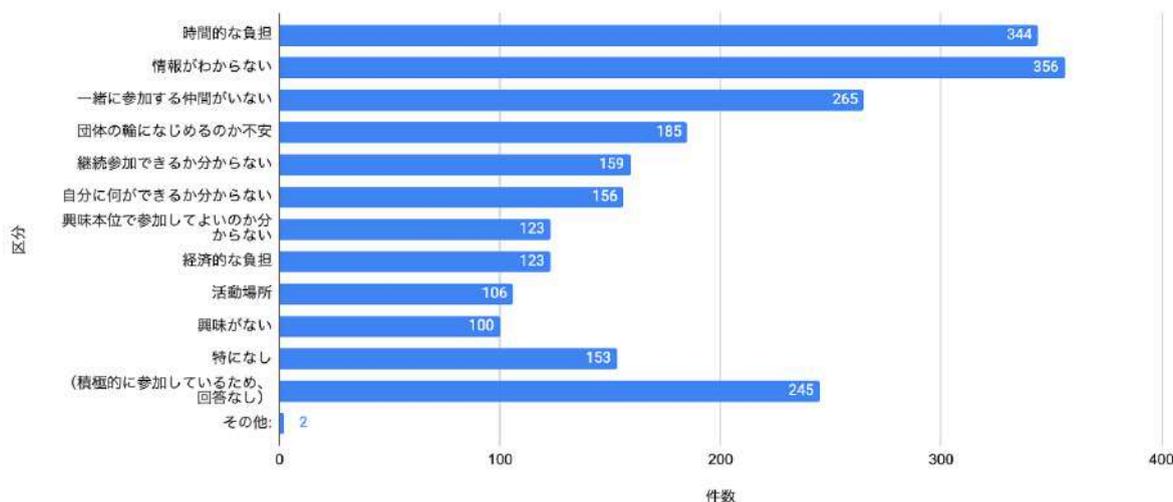
また、「7～10」の高い定住意向を示した回答は523件で、全体の51.07%を占めている。一方で、「1～4」の低い層も213件（20.80%）存在しており、地域への愛着や関心があっても、進学・就職・暮らしやすさなどを踏まえて、住み続けるかどうかを現実的に考えている若者が一定数いることがわかる。

全体として、地域への関心の高さに比べると、定住意向はやや慎重な傾向にあり、若者が「関わりたい地域」と「住み続けたい地域」を必ずしも同一には捉えていない可能性が示されている。今後は、地域への愛着を定住意向につなげていくために、働く場や暮らしの魅力、将来の見通しを具体的に示していくことが重要である。

エ.行動阻害要因

＜設問22＞これまで地域活動に参加したことがない／できなかったという方に質問です。その理由を選択してください。（複数選択可）

件数と区分



区分	件数
時間的な負担（活動時間の長さ・頻度など）	344件
情報がわからない（活動事例・団体情報など）	356件
一緒に参加する仲間がない	265件
団体の輪になじめるのか不安	185件
継続的に参加できるか分からない	159件
自分に何ができるのかわからない	156件
興味本位で参加してよいのかわからない （知識・スキル・経験等の有無など）	123件
経済的な負担（交通費など）	122件
活動場所（会場に移動するのが時間がかかるなど）	106件
興味がない	100件
特になし	153件
(積極的に参加しているため、回答なし)	245件
その他	2件

■ 「その他」の主な内容（例）

- ・人間関係への不安（雰囲気になじめるか心配など）
- ・学業や仕事との両立の難しさ
- ・育児・家庭の事情による制約
- ・体力面・健康面の不安

- ・情報は見かけるが具体的な参加方法が分からない
- ・オンラインであれば参加したいという意向
- ・過去に参加したが継続できなかった経験
- ・地域に知り合いが少ないことへの不安
- ・興味はあるがきっかけがないという声

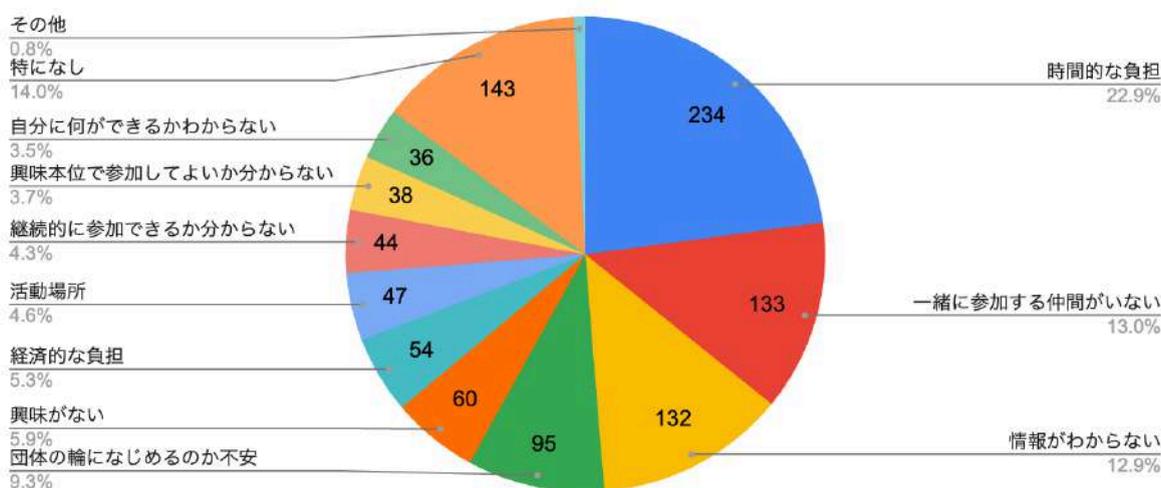
解説：地域活動に参加できなかった理由としては、「情報がわからない」が356件で最も多く、次いで「時間的な負担」が344件、「一緒に参加する仲間がいない」が265件となった。若者の地域参加を妨げているのは、関心の低さよりも、情報の届きにくさや時間の制約、参加を後押しする人間関係の不足といった環境面の課題であることがわかる。

また、「団体の輪になじめるのか不安」185件、「継続的に参加できるか分からない」159件、「自分に何ができるかわからない」156件と、心理的なハードルも一定数見られた。一方で、「興味がない」は96件にとどまっており、無関心そのものよりも、参加のきっかけや見通しの持ちにくさが行動を阻んでいる実態がうかがえる。

全体として、若者の地域参加を促進するためには、活動情報をわかりやすく届けることに加え、初めてでも参加しやすい雰囲気づくりや、仲間と一緒に関われる導線づくりが重要である。

<設問23>参加を迷うときの一番の理由は？（単一選択）

件数



区分	件数
時間的な負担（活動時間の長さ・頻度など）	234件
一緒に参加する仲間がいない	133件
情報がわからない（活動事例・団体情報など）	132件
団体の輪になじめるのか不安	95件
興味がない	60件
経済的な負担（交通費など）	54件
活動場所（会場に移動するのが時間がかかるなど）	47件
継続的に参加できるかわからない	44件
興味本位で参加してよいか分らない （知識・スキル・経験等の有無など）	38件
自分に何ができるかわからない	36件
特になし	148件
その他	8件

- 「その他」の主な内容（例）
- ・ 育児、家庭事情による制約
- ・ 不規則な仕事・学業との両立の難しさ
- ・ 体調面の不安
- ・ 過去の間関係トラブル
- ・ オンライン参加希望
- ・ すでに別地域で活動中

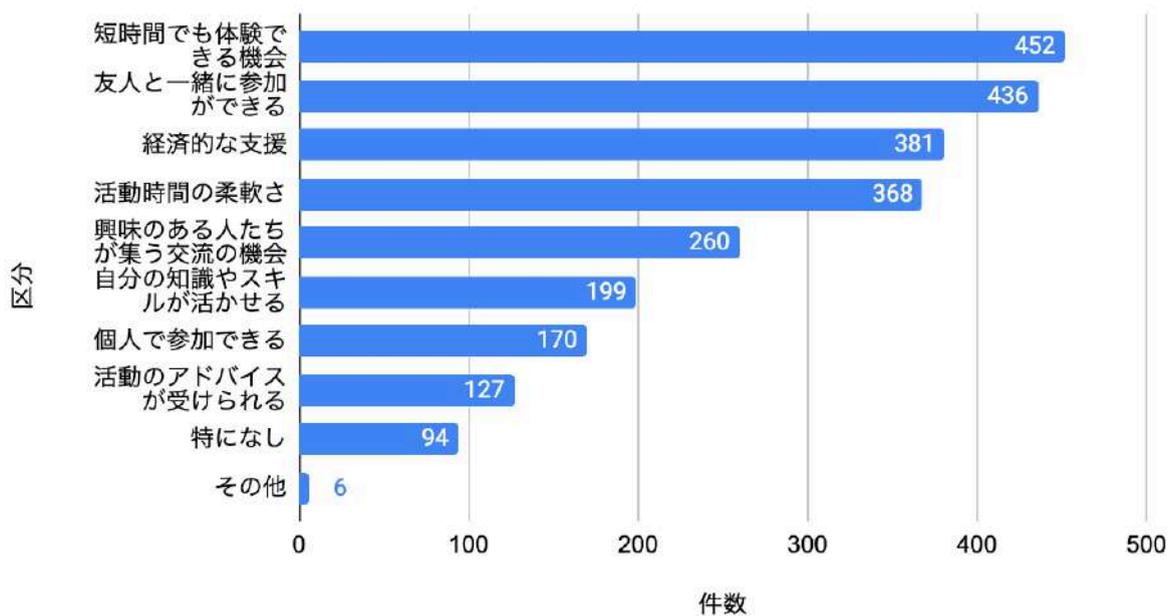
解説：地域活動への参加を迷うときの一番の理由として最も多かったのは、「時間的な負担」の234件であり、次いで「一緒に参加する仲間がいない」が133件、「情報がわからない」が132件となった。複数回答の設問と同様に、若者の行動を最も強く妨げているのは、関心の有無よりも、時間の確保の難しさや情報不足、参加を後押しする仲間の不在であることがわかる。

また、「団体の輪になじめるのか不安」が95件、「興味がない」が60件であり、心理的な不安や無関心も一定数見られるものの、主因とはなっていない。一方で、「特になし」も148件あり、参加を迷う明確な障壁がない層も一定数存在していることがうかがえる。

全体として、若者の地域参加を促すためには、活動そのものの魅力向上だけでなく、短時間でも参加しやすい設計や、仲間と参加できる仕組み、情報にアクセスしやすい発信方法を整えることが重要である。

<設問24>活動に参加しやすくなる要素は？（複数選択可）

件数と区分



区分	件数
短時間でも体験できる機会	452件
友人と一緒に参加ができる	436件
経済的な支援（交通費支給・報酬や謝礼の有無など）	381件
活動時間の柔軟さ	368件
活動中や興味のある人たちが集う交流の機会	260件
自分の知識やスキル、経験等が活かせる	199件
個人で参加できる	170件
活動のアドバイスが受けられる	127件
特になし	94件
その他	6件

- 「その他」の主な内容（例）
- ・ オンライン参加（Zoom等）
- ・ SNSでの事前周知・雰囲気の可視化
- ・ 活動内容の具体性・分かりやすさ

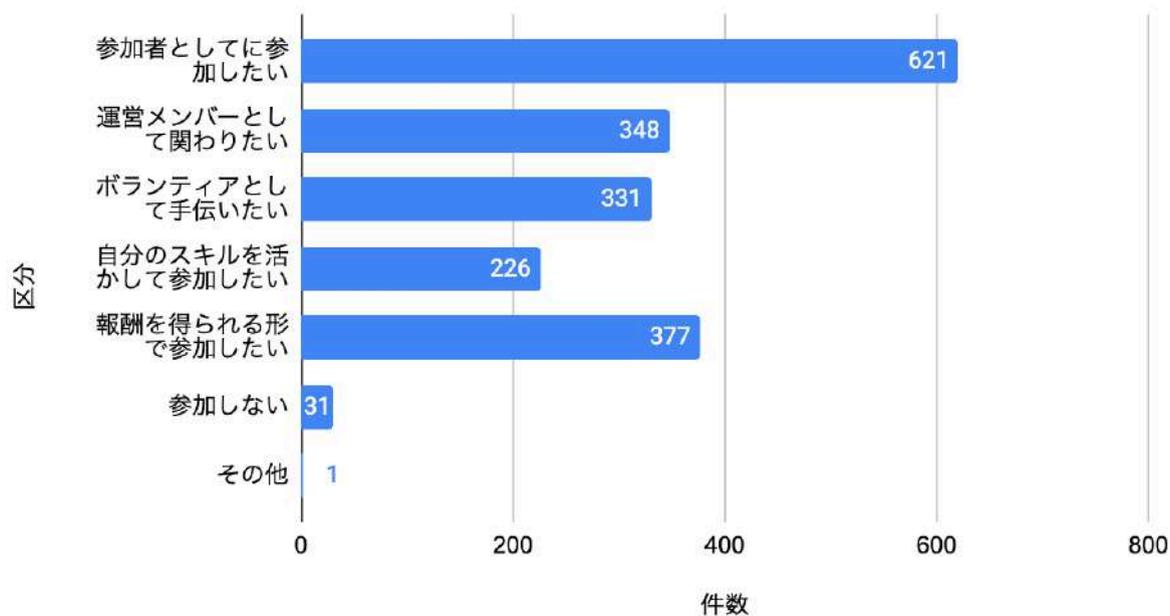
解説：活動に参加しやすくなる要素としては、「短時間でも体験できる機会」が452件で最も多く、次いで「友人と一緒に参加ができる」が436件、「経済的な支援」が381件となった。若者にとっては、気軽に試せること、仲間と一緒に参加できること、そして費用面の負担が軽いことが、参加へのハードルを下げる重要な条件となっている。

また、「活動時間の柔軟さ」368件、「交流の機会」282件も多く、参加しやすさには時間面の融通や、その場で人とつながれる安心感も大きく関わっていることがわかる。全体として、若者の地域参加を促すには、長期的なコミットメントを前提とするよりも、まずは参加しやすい入口を整え、仲間や交流を通じて自然に関わりが深まる仕組みをつくることが重要である。

オ.期待とニーズ

＜設問25＞地域活動に参加するなら、どのような「参加形態」を希望しますか？（複数選択可）

件数と区分



参加形態	件数
参加者としてイベントや活動に参加したい	621件
運営メンバーとして企画や準備から関わりたい	348件
ボランティアとして当日の手伝いをしたい	331件
自分のスキル（例：デザイン・写真・広報など）を活かして参加したい	226件
報酬（例：金銭、特典など）を得られる形で参加したい	377件
参加しない	31件
その他	1件

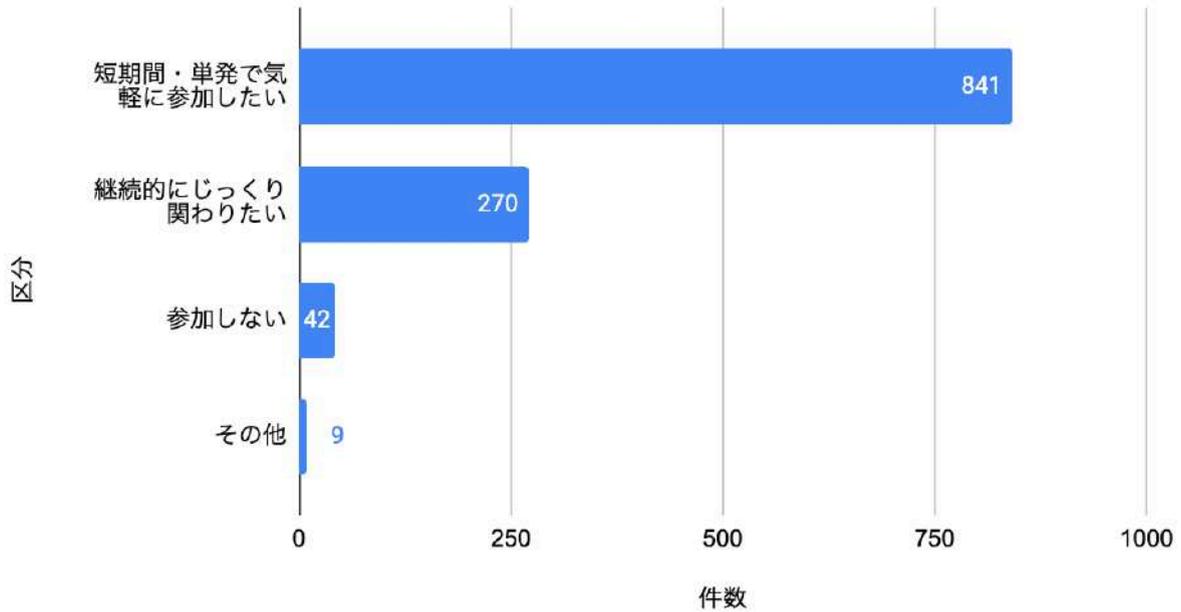
- 「その他」の主な内容（例）
 - ・参加できなが、意見を伝えることはしたい

解説：希望する参加形態として最も多かったのは、「参加者としてイベントや活動に参加したい」の621件であり、まずは気軽に参加できる立場を望む若者が多いことがわかる。次いで「報酬を得られる形で参加したい」が377件、「運営メンバーとして企画や準備から関わりたい」が348件、「ボランティアとして当日の手伝いをしたい」が331件となっており、関わり方のニーズは受け身の参加から主体的な参画まで幅広い。

また、「自分のスキルを活かして参加したい」も226件あり、若者の中には地域活動を自己表現や実践の場として捉える意識も見られる。全体として、若者が地域活動に求めているのは一律の参加形態ではなく、気軽に関われる入口から、企画・運営、スキル提供、報酬を伴う関わりまで、多様な選択肢が用意されていることであるといえる。

＜設問 26＞地域活動に参加するなら、どのような「参加期間」を希望しますか？（複数選択可）

件数と区分



参加形態	件数
短期間・単発で気軽に参加したい	841件
継続的にじっくり関わりたい	270件
参加しない	42件
その他	4件

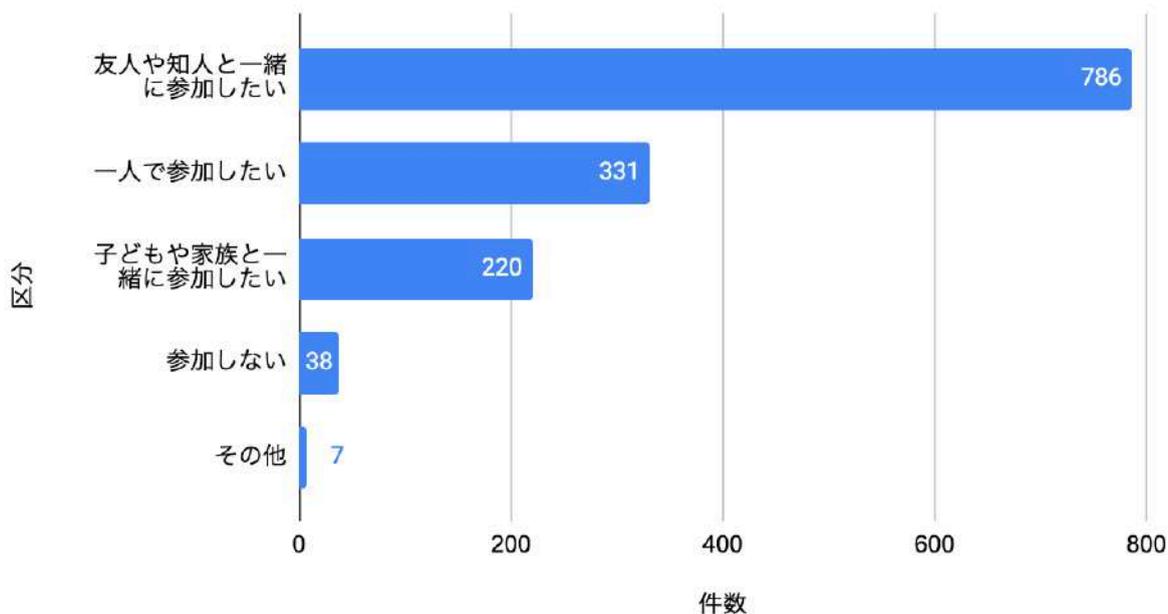
- 「その他」の主な内容（例）
 - ・活動条件（時間・体力・内容）によって判断したい
 - ・自分の状況に応じて柔軟に選びたい

解説：希望する参加期間としては、「短期間・単発で気軽に参加したい」が841件と突出して多く、若者の多くがまずは負担の少ない形で地域活動に関わりたいと考えていることがわかる。一方で、「継続的にじっくり関わりたい」も270件あり、一定数はより深い関与を望んでいる。

この結果から、若者の地域参加を広げるためには、最初から継続的な関与を前提とするのではなく、まずは単発で参加しやすい機会を豊富に設けることが重要であるといえる。そのうえで、参加経験を通じて関心が高まった人が継続的な関わりへ移行できるよう、段階的な参加導線を整えることが求められる。

＜設問27＞地域活動に参加するなら、どのような「参加スタイル」を希望しますか？
 (複数選択可)

件数と区分



参加形態	件数
友人や知人と一緒に参加したい	786件
一人で参加したい	331件
子どもや家族と一緒に参加したい	220件
参加しない	38件
その他	7件

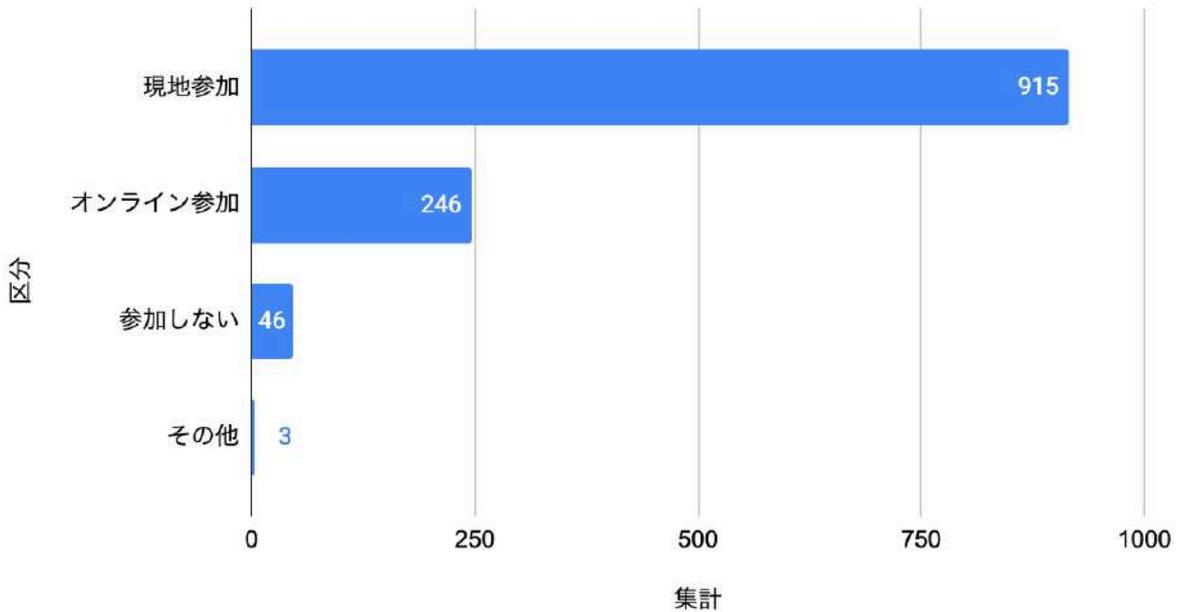
- 「その他」の主な内容 (例)
 - ・ 状況や内容に応じて参加スタイルを選びたい
 - ・ 特定の対象 (後輩・障がい児等) と参加したい

解説：希望する参加スタイルとしては、「友人や知人と一緒に参加したい」が786件と最も多く、若者にとっては、身近な人と一緒に参加できることが地域活動への大きな後押しになっていることがわかる。一方で、「一人で参加したい」も331件あり、個人で気軽に関わりたいニーズも一定数見られた。

また、「子どもや家族と一緒に参加したい」が220件あったことから、ライフステージや生活環境に応じて、家族単位で地域と関わりたいと考える層も存在している。全体として、若者の地域参加を促進するには、友人同士で参加しやすい設計を基本としつつ、一人でも入りやすい雰囲気や、家族で参加できる選択肢も用意することが重要である。

＜設問 28＞地域活動に参加するなら、どのような「参加方法」を希望しますか？（複数選択可）

集計と区分



参加方法	件数
現地参加	933件
オンライン参加	246件
参加しない	46件
その他	2件

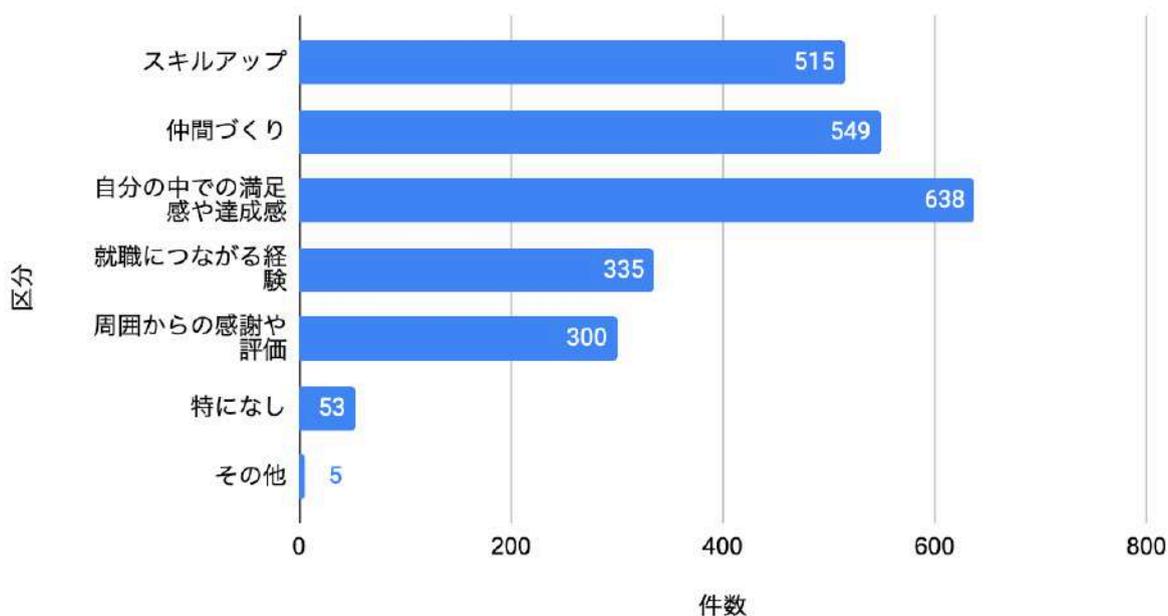
- 「その他」の主な内容（例）
 - ・ 場合による

解説：希望する参加方法としては、「現地参加」が915件と圧倒的に多く、若者の多くが実際にその場に足を運び、地域や人と直接関わる形を望んでいることがわかる。一方で、「オンライン参加」は246件にとどまり、補助的な選択肢として一定のニーズはあるものの、主流は対面での参加であることがうかがえる。

この結果から、地域活動の設計においては、現地での体験や交流を中心に据えることが重要であるといえる。そのうえで、参加のハードルを下げる手段としてオンラインも併用し、状況に応じて柔軟に関われる仕組みを整えることが望ましい

＜設問29＞活動を通じて得たいものは？（複数選択可）

件数と区分



得たいもの	件数
スキルアップ	515件
仲間づくり	549件
自分の中での満足感や達成感	638件
就職につながる経験	335件
周囲からの感謝や評価	300件
特になし	53件
その他	5件

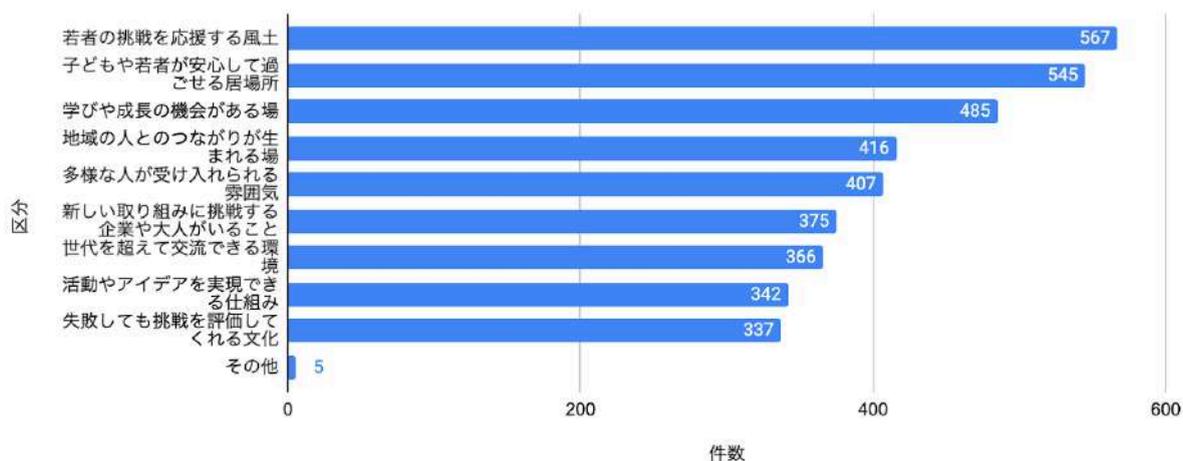
- 「その他」の主な内容（例）
 - ・ 地域とのつながりを深めたい
 - ・ 地域課題への理解
 - ・ 視野を広げたい

解説：活動を通じて得たいものとしては、「自分の中での満足感や達成感」が638件で最も多く、次いで「仲間づくり」が549件、「スキルアップ」が515件となった。若者は地域活動を通じて、単に地域に貢献するだけでなく、自分自身の成長や充実感、人とのつながりを得たいと考えていることがわかる。

また、「就職につながる経験」も335件あり、活動を将来に活かせる実践の場として捉える意識も一定数見られた。一方で、「周囲からの感謝や評価」は300件であり、外からの評価以上に、自分の中で納得感や意味を感じられることが重視されていることがうかがえる。全体として、若者にとって地域活動は、自己成長とつながり、そして前向きな実感を得られる場として期待されている。

<設問30>行政や地域に期待することがあれば、選択してください。（複数選択可）

件数と区分



期待すること	件数
若者の挑戦を応援する風土	567件
子どもや若者が安心して過ごせる居場所	545件
学びや成長の機会がある場	485件
地域の人とのつながりが生まれる場	416件
多様な人が受け入れられる雰囲気	407件
新しい取り組みに挑戦する企業や大人がいること	375件
世代を超えて交流できる環境	366件
活動やアイデアを実現できる仕組み	342件
失敗しても挑戦を評価してくれる文化	337件
その他	5件

■ 「その他」の主な内容（例）

- ・若者が休日に安心して過ごせる遊び場や居場所の充実
- ・期待していない

解説：行政や地域に期待することとして最も多かったのは、「若者の挑戦を応援する風土」の557件であり、次いで「子どもや若者が安心して過ごせる居場所」が507件、「学びや成長の機会がある場」が451件、「地域の人とのつながりが生まれる場」が423件となった。若者は、単に活動の機会そのものだけでなく、安心して挑戦でき、成長しながら人とつながれる環境を強く求めていることがわかる。

また、「新しい取り組みに挑戦する企業や大人がいること」359件、「世代を超えて交流できる環境」348件、「活動やアイデアを実現できる仕組み」333件、「失敗しても挑戦を評価してくれる文化」330件と続いており、若者の期待は場の提供にとどまらず、挑戦を後押しする地域全体の姿勢や文化にも向けられていることがうかがえる。

全体として、若者が地域に求めているのは、安心して過ごせる居場所、学びや交流の機会、そして挑戦を受け止め支えてくれる風土である。地域参加を広げていくためには、機会の数を増やすだけでなく、若者が「ここならやってみたい」と思える空気や関係性を育てていくことが重要である。

(3) 考察

本アンケート結果から、こおりやま広域圏にゆかりのある若者は、地域に対して総じて高い関心を有しており、実際に約7割が何らかの地域活動への参加経験を持つなど、地域との接点は一定程度形成されていることが明らかとなった。特に、地域に「関わりたい気持ち」は平均7.28と比較的高く、地域に対する愛着、家族や友人とのつながり、自然や文化への魅力認識、学校や仕事を通じた関与経験などが、その意欲を支える主要因となっている。若者の地域への関心は、抽象的な地域貢献意識というよりも、身近な人間関係や実体験、暮らしの実感に根ざしたものであるといえる。

一方で、その関心や意欲が必ずしも継続的・主体的な行動に結びついているわけではない。地域参加を妨げる要因としては、「若者向けの活動の場が少ない」「活動情報が分かりにくい」「一緒に参加する仲間がいない」「時間的な負担が大きい」といった回答が多く、**無関心よりも、参加機会や情報、人的後押しの不足といった環境面・構造面の課題が大きいことが示された**。特に、「興味がない」とする回答は相対的に少なく、若者の中には地域に関わりたい思いを持ちながらも、具体的な入口が見つからず行動化できていない「潜在層」が相当数存在していると考えられる。

また、地域活動への参加実態を見ると、参加のきっかけは「学校や職場で機会があった」「人から勧められた・誘われた」といった外的要因が中心であり、若者の参加は自発性のみで成立しているのではなく、所属先や周囲の人間関係を通じて促進されていることがわかる。加えて、参加形態としては「参加者として気軽に参加したい」、参加期間としては「短期間・単発で参加したい」、参加スタイルとしては「友人や知人と一緒に参加したい」との回答が多く、若者は最初から深いコミットメントを求めているのではなく、まずは低負担で試しやすい関わり方を求めていることが読み取れる。したがって、**地域活動への参画促進にあたっては、単発参加・同行参加・短時間参加といった入口設計を重視し、その後に継続的な関与へつなげる段階的な仕組みづくりが重要である**。

活動内容に対するニーズとしては、多世代・国際交流、スポーツ、学びの場づくり、芸術・文化活動、子ども支援、地域産業応援などが上位に挙がっており、若者は地域の中で「人とつながること」「学ぶこと」「表現すること」「誰かの役に立つこと」に高い関心を持っていることがうかがえる。また、活動を通じて得たいものとして、「達成感」「仲間づくり」「スキルアップ」が多く挙げられていることから、若者は地域活動を単なる社会貢献の場としてではなく、自身の成長や自己実現、将来への蓄積につながる機会として捉えていると考えられる。特に「就職につながる経験」への期待も一定数見られたことから、地域活動をキャリア形成や実践的学びと接続していく視点も有効である。

さらに、行政や地域に対する期待としては、「若者の挑戦を応援する風土」「安心して過ごせる居場所」「学びや成長の機会がある場」が上位に挙がっており、若者が求めているのは単なるイベントや参加募集ではなく、挑戦を前向きに受け止め、失敗も含めて支えてくれる地域の空気や関係性であることが示された。あわせて、「多様な人が受け入れられる雰囲気」「新しい取り組みに挑戦する企業や大人がいること」「活動やアイデアを実現できる仕組み」への期待も高く、若者施策においては、機会提供のみならず、地域全体の受容性や伴走性をどう高めるかが重要な論点となる。

その一方で、「地域に関わりたい気持ち」の高さと比較すると、「将来も住み続けたい」という定住意向は平均6.5にとどまり、関心や愛着と定住希望が必ずしも一致していないことも明らかとなった。このことは、若者が地域を肯定的に捉えながらも、進学・就職・生活利便性・将来展望などを踏まえ、居住継続については現実的かつ慎重に判断していることを示している。すなわち、若者にとって地域との関係は「住み続けるか否か」の二択ではなく、住んでいなくても関わる、応援する、時々戻るといった多様な関係性として捉える必要がある。今後の施策設計においては、定住促進だけでなく、関係人口としての関与継続や、将来的なUターン・地域参画の可能性を視野に入れた柔軟な関係づくりが求められる。

以上を踏まえると、今後の若者施策においては、第一に、若者が必要な情報にアクセスしやすい発信方法を整えること、第二に、単発・短時間・友人同伴など参加しやすい入口を拡充すること、第三に、学び・交流・挑戦・実践が接続された多様な活動機会を用意すること、第四に、若者の挑戦を地域全体で受け止める風土や居場所を育てることが重要である。若者は地域に無関心なのではなく、関わり方の設計次第で十分に参加の可能性を持つ存在である。

本調査は、その可能性を具体的に示すとともに、若者の意欲を実際の行動へとつなげるために必要な条件を明らかにした基礎資料であるといえる。

2. ワークショップ

(1) 調査概要

名称：Z世代本音ワークショップ

実施目的：

本ワークショップは、こおりやま広域圏にゆかりのある学生・社会人を対象に、地域に対する思いや「本当はやってみたいこと」、それを実現できない理由について対話を通じて掘り下げ、若者が地域と関わるうえで感じている課題や可能性を質的に把握することを目的として実施した。

具体的には、参加者自身が抱える希望や葛藤を言語化するとともに、グループディスカッションを通じて、行動を阻害している要因の共通点・相違点を整理し、地域との関わりや挑戦を後押しするために必要な仕組みや環境について意見を収集することを目的とする。

また、Webアンケートでは把握しきれない個々の背景や感情、価値観、立場による認識の違いを丁寧に拾い上げることで、若者の地域参加に関する実態をより立体的に捉え、今後の施策立案や支援のあり方を検討するための基礎資料とすることを目指した。

実施日時：

- ① 学生回：2025年11月8日(土) 10：00～12：00
- ② 社会人回：2025年12月4日(木) 18：30～20：30

実施方法：対面

対象者：こおりやま広域圏にゆかりのある学生、社会人

ワークショップ内容：

- ・自己紹介
- ・「やりたいこと／やれない理由」の言語化ワーク
- ・グループディスカッション
- ・実現に向けたアプローチを検討
- ・全体発表（課題分析と解決アイデア）
- ・事後アンケート記入とネットワーキング

会場：郡山市立中央公民館 3F ほぼいえ

参加人数：

- ① 学生回：17名
- ② 社会人回：12名（うち1名が途中退出）

周知方法：

市ホームページやSNS、チラシ等で広く周知した。

(2) 調査内容

ワークショップは、学生回・社会人回ともに共通の進行で実施した。はじめに全体説明として、開会挨拶および趣旨説明を行い、本ワークショップの目的と当日の流れを共有した。続いて、参加者が氏名、所属、現在取り組んでいること等を1人1分程度で紹介し、参加者同士の相互理解を図った。

その後、個人ワークとして「やりたいこと」と「やれない理由」の言語化を行った。まず、お金、人、知識、世間体などの制約を一度取り払い、参加者が本来やってみたいことを付箋に書き出した。次に、それらを実現できない理由や、行動に移せない要因を整理し、各自の内面にある障壁を可視化した。

続くグループディスカッション①では、各自が作成した付箋の内容を共有し、阻害要因の共通点と相違点を整理した。付箋は、会社員、経営者、個人事業主などの属性ごとに分類しながら模造紙上で可視化し、立場の違いによる意識差や特徴を把握した。

グループディスカッション②では、整理された阻害要因を踏まえ、実現に向けたアプローチを検討した。参加者は、課題の解消につながる仕組みや環境のあり方について意見を出し合い、具体的な支援や場づくりの方向性を議論した。

最後に、全体共有として各グループが議論内容を発表した。発表では、行動を阻害している要因の分析結果と、それに対する解決に向けたアプローチが共有され、ファシリテーターが全体の議論を総括した。

※詳細な進行内容は、IV.付録「2.ワークショップ内容」に記載。

(3) 調査結果

- ・個人ワーク「やりたいこと／やれない理由※」の言語化
 - ・グループディスカッション①「阻害要因の共通点・違い探し」
 - ・グループディスカッション②「実現に向けたアプローチ検討」
- の3つで出た内容を、整理するものとする。

※やれない理由についてはグループディスカッションに記載

ア.学生回

(ア) グループ別ワーク内容

参加者17名を5グループに分けて個人ワーク、グループワークを実施した。
以下に、グループ別にワーク内容を整理する。

<グループ1>

個人ワーク「やりたいこと／やれない理由」の言語化

海外に行きたい、カフェを作りたい、マルシェに出店したい、フェスをしたい、人の役に立ちたい、人脈を広げたい、金融の知識を学びたい、お金と英語力を身につけたい

グループディスカッション①「阻害要因の共通点・違い探し」

実現するための資金が足りない、実現するためにどのくらいの金額が必要なのかわからない、海外に行くための英語力が足りない、時間が足りない、周囲を巻き込む営業力が足りない、活動場所がない

グループディスカッション②「実現に向けたアプローチ検討」

支援の機会を増やしてほしい、気軽に挑戦できるチャンスが欲しい

<グループ2>

個人ワーク「やりたいこと／やれない理由」の言語化

博士号を取りたい、論文を書いて発表したい、海外旅行に行きたい、人脈を増やしたい、社会実験を行いたい、発展途上国の支援がしたい、ノーベル賞を取りたい

グループディスカッション①「阻害要因の共通点・違い探し」

実現するための資金が足りない、研究環境が整っていない、海外の人との繋がりが少ない、情報が少ない

グループディスカッション②「実現に向けたアプローチ検討」

資金援助や研究環境、情報発信などの支援の機会を増やしてほしい

<グループ3>

個人ワーク「やりたいこと／やれない理由」の言語化

家を建てたい、起業してみたい、学外の大会に出場したい、海外に行きたい、マーケティングを学びたい、人脈を広げたい

グループディスカッション①「阻害要因の共通点・違い探し」

実現するための資金が足りない、時間が足りない、何から始めれば良いのか知識が足りない、相談したり一緒に挑戦したりできる仲間がいない、漠然と挑戦することに不安がある

グループディスカッション②「実現に向けたアプローチ検討」

資金的援助や情報発信などの支援の機会を増やしてほしい、人脈を広げる機会がほしい

<グループ4>

個人ワーク「やりたいこと／やれない理由」の言語化

イベントを開催したい、情報発信がしたい、旅行に行きたい、自動車免許を取得したい

グループディスカッション①「阻害要因の共通点・違い探し」

実現するための資金が足りない、時間が足りない、情報が足りていない

グループディスカッション②「実現に向けたアプローチ検討」

行政と若者の連携、行政のInstagramでイベント情報発信をしていく

<グループ5>

個人ワーク「やりたいこと／やれない理由」の言語化

自己理解を深めたい、家以外での居場所が欲しい、イベントを開催したい、ITで業務や勉強を効率化したい

グループディスカッション①「阻害要因の共通点・違い探し」

実現するための資金が足りない、実現に協力してくれる仲間がない、時間が足りない、自分に自信がない、過去にトラウマがある

グループディスカッション②「実現に向けたアプローチ検討」

資金的援助や情報発信などの支援の機会を増やしてほしい、人脈を広げる機会がほしい、家以外での居場所づくり

(イ) 全体の分析

チーム別に出た内容を元に、参加者全体から見えてきた傾向を分析する。

個人ワーク「やりたいこと／やれない理由」の言語化

各チームのワーク結果を総合的に整理すると、参加者が抱いている「やりたいこと」は多様でありながら、いくつかの共通した志向が見られた。

具体的には、海外に行く、イベントやフェスを開催する、カフェや事業を立ち上げる、研究活動や社会実験に取り組むなど、**自分自身の興味関心をもとに新しい挑戦をしたいという意欲**が多く挙げられた。

また、人脈を広げたい、金融やマーケティングなどの知識を身につけたい、社会課題の解決に関わりたいといった意見も見られ、**自己成長と社会への貢献を両立させたい**という志向がうかがえた。

さらに、自己理解を深めたい、家以外の居場所が欲しいといった声もあり、単なる活動機会だけでなく、自分自身を見つめ直したり安心して関われる環境を求めている参加者も一定数存在していることが確認できた。

グループディスカッション①「阻害要因の共通点・違い探し」

一方で、こうした「やりたいこと」を実現できていない理由については、チームを超えて共通する要因が多く見られた。

最も多く挙げられたのは**資金面の課題**であり、「**やりたいことを実現するための資金が足りない**」「**そもそもの程度の資金が必要なのかわからない**」といった声が複数のグループで共有された。

また、時間の不足や情報不足も大きな阻害要因として挙げられた。加えて、何から始めればよいのか分からないという知識面での不安や、相談できる仲間や協力者がいないといった人脈の不足も多くのグループで共通しており、挑戦の初期段階における支援の不足が課題として浮かび上がった。

さらに一部の参加者からは、自分に自信がない、過去の経験が影響して挑戦に踏み出しにくいといった心理的要因も指摘されており、環境面だけでなく心理的な側面も挑戦の障壁となっていることが確認できた。

グループディスカッション②「実現に向けたアプローチ検討」

これらの議論を踏まえ、実現に向けたアプローチとしては、**若者が挑戦しやすい環境づくりを求める声**が多く挙げられた。具体的には、資金的な支援や研究・活動環境の整備、若者の挑戦を後押しする機会の拡充、情報発信の強化などが提案された。

また、人脈を広げる機会や、同じ志向を持つ人と出会える場の必要性も複数のグループで指摘された。さらに、行政との連携によるイベント情報の発信や、家以外で安心して過ごせる居場所づくりなど、地域全体で若者の活動を支える仕組みの重要性も示された。

(ウ) 事後アンケート結果

＜設問1＞本日の満足度について教えてください。（1：大変不満～10：大変満足）
＜設問2＞上記の満足度の理由を教えてください。

- ・ 回答数：16名
- ・ 合計点：140点
- ・ 平均満足度：8.75/10点
- ・ 中央値：9.5

＜満足度＞10点：8名
＜理由＞他の参加者の取り組みや夢・目標を聞いて刺激になった、同年代との意見交換ができた、人と話せて気持ちが軽くなった、郡山市がやりたいことを応援してくれると知れた、自分のやりたいこと・叶えたいことに気づけた、夢を恥ずかしがらず楽しく話せた
＜満足度＞19点：3名
＜理由＞面白かった、活発に活動している同世代から刺激を受けた、同じような悩みを持つ人がいると分かった、さまざまな知識や考えが集まる場だった
＜満足度＞18点：3名
＜理由＞同世代の意見を多く聞いた、学生が意見を発表する場として有意義だった、多くの人と出会い考えを共有できた
＜満足度＞16点：1名
＜理由＞チームに十分貢献できなかったかもしれない、自分のやりたいことを言語化できた
＜満足度＞13点：1名
＜理由＞チーム内におけるモチベーションの差

<傾向・考察>

ワークショップ終了後に実施した満足度アンケート（10点満点）では、回答者16名の平均満足度は8.75点となった。10点と9点の高評価は全体の約7割を占め、8点以上の回答は約9割に達しており、多くの参加者が本ワークショップを高く評価していることが確認された。

満足度が高かった理由としては、他の参加者の取り組みや夢・目標を聞くことで刺激を受けたこと、同年代との意見交換ができたこと、さまざまな知識や考えが集まる場であったことなど、「参加者同士の交流や意見交換」に関する評価が多く見られた。

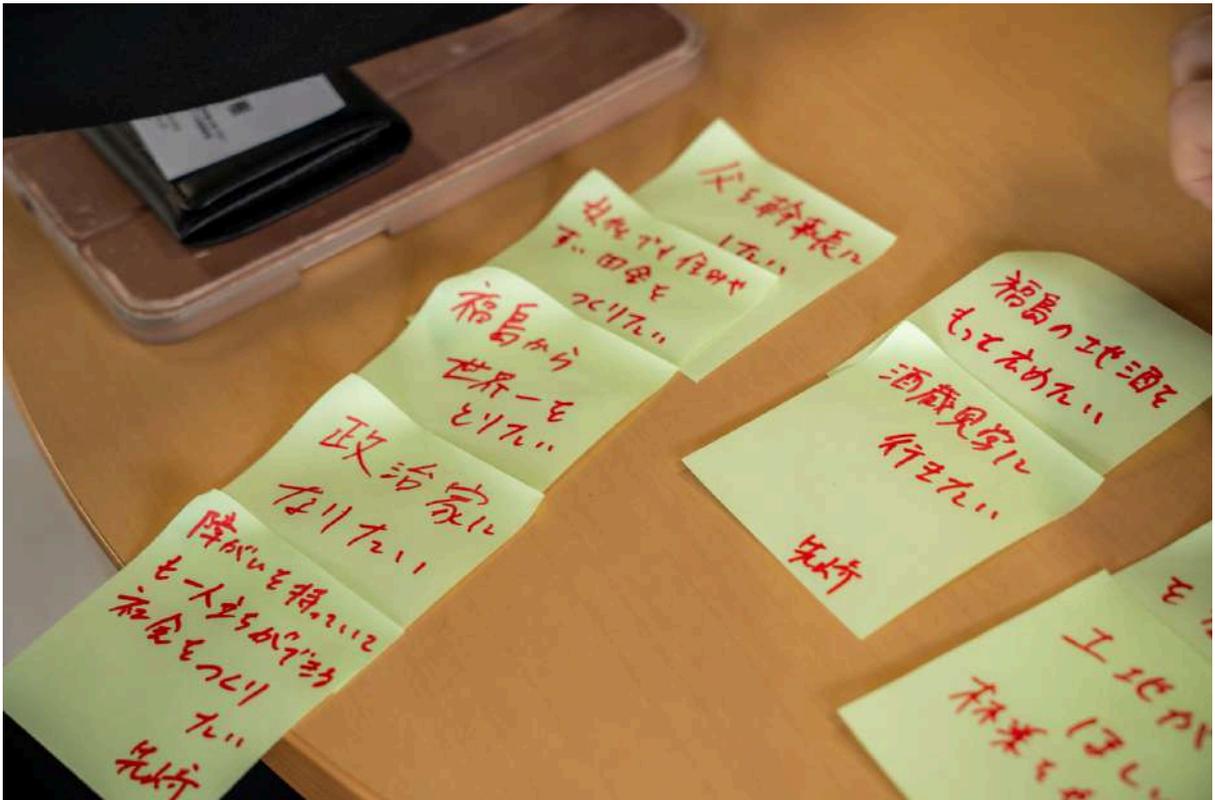
また、人と話すことで気持ちが軽くなった、自分のやりたいことや叶えたいことに気づくことができた、夢を恥ずかしがらず話すことができたといった意見もあり、ワークショップを通じて自己理解を深める機会となったこともうかがえる。さらに、郡山市がやりたいことを応援してくれると知ることができたという声もあり、地域や行政とのつながりを感じられる場としても評価されていた。

一方で、満足度がやや低かった回答としては、チームに十分貢献できなかったと感じたことや、チーム内でのモチベーションの差を感じたことなど、グループワークの進め方や参加者間の温度差に関する意見も見られた。これらの結果から、本ワークショップは参加者同士の交流や刺激を得る場として高い評価を得ている一方で、チーム内の関わり方や参加者のモチベーションの差に配慮した運営の工夫が今後の課題として考えられる。

（エ）考察

学生回のワークショップ結果およびアンケート結果を総合すると、参加者には海外挑戦やイベント企画、起業、研究活動など多様な「やりたいこと」が存在しており、自己成長や社会への関わりを志向する意欲が多く見られた。一方で、その実現を阻む要因として、資金・時間・知識・人脈といった環境面の課題に加え、自信の不足や挑戦への不安といった心理的要因も共通して挙げられた。

また、終了後のアンケートでは参加者同士の意見交換や交流が刺激や気づきにつながったとの声が多く、同世代が夢や悩みを共有できる対話の場が自己理解や行動意欲の向上に寄与していることが確認された。以上から、若者が挑戦を具体化していくためには、資金や情報といった実務的支援に加え、人とつながり安心して挑戦できる環境づくりが重要であると考えられる。



当日の実施風景（一部）

イ.社会人回

(ア) グループ別ワーク内容

参加者12名を3グループに分けて個人ワーク、グループワークを実施した。
以下に、グループ別にワーク内容を整理する。

<グループA>

個人ワーク「やりたいこと／やれない理由」の言語化

資格を取りたい、資格知識を身につけたい、福島企業のDX化に関わりたい、郡山の魅力を発信したい、郡山を大きなアリーナを作りたい、旅行に行きたい、音楽活動をしたい、休みを取りたい

グループディスカッション①「阻害要因の共通点・違い探し」

実現するための時間がない、知識が足りない、実現するための資金が足りない、体力が足りない、仕事が忙しい、やる気や余裕が続かない

グループディスカッション②「実現に向けたアプローチ検討」

知識・時間・資金の確保や働き方の余裕づくり

<グループB>

個人ワーク「やりたいこと／やれない理由」の言語化

自分の家を建てたい、旅行に行きたい、活動の幅を広げたい

グループディスカッション①「阻害要因の共通点・違い探し」

実現するための資金が足りない、実現するための時間がない、実現するという強い意志がない、車や免許が必要、仲間や知識が必要

グループディスカッション②「実現に向けたアプローチ検討」

業務の効率化やツールの活用による時間創出、情報をより早く得られる仕組みづくり、イベントや地域活動の拡大

<グループC>

個人ワーク「やりたいこと／やれない理由」の言語化

事業をつくりたい、海外展開をしたい、キャパシティの広いライブやイベントを行いたい、POPUPショップをつくりたい、若者が集まる場をつくりたい、福島魅力を発信したい、福島でフードフェスティバルを開催したい、作詞作曲やMV制作をしたい

グループディスカッション①「阻害要因の共通点・違い探し」

実現するための資金が足りない、時間が足りない、お金を相談できる相手がない、活動できる場所がない、イベント開催の許可や規則が分からない、技術や経験が不足している

グループディスカッション②「実現に向けたアプローチ検討」

仲間や人脈を増やせる機会、行政や地域と若者の連携、挑戦できる場所や機会を増やすこと、必要な資格や知識を学べる環境、民間企業ごとのラフな繋がり作り

(イ) 全体の分析

チーム別に出た内容を元に、参加者全体から見えてきた傾向を分析する。

個人ワーク「やりたいこと／やれない理由」の言語化

各グループのワーク結果を総合すると、参加者の「やりたいこと」には大きく三つの傾向が見られた。

第一に、資格取得や知識習得、DX推進など、仕事やスキルの向上に関わる自己成長型の目標である。第二に、福島や郡山の魅力発信、イベントやライブの開催、フードフェスティバルなど、地域を舞台に新しい取り組みを実現したいという地域貢献型の目標である。第三に、旅行や音楽活動、休暇の取得、家を建てるといった個人の生活や余暇の充実に関わる目標である。

これらの内容から、社会人参加者はキャリアの発展だけでなく、地域への関与や個人の生活の豊かさなど、多面的な価値観の中で「やりたいこと」を捉えていることがうかがえた。

グループディスカッション①「阻害要因の共通点・違い探し」

一方で、「やりたいこと」を実現できない理由としては、グループを超えて共通する要因が複数確認された。特に多く挙げられたのは時間不足であり、仕事の忙しさや日常業務に追われることで新しい挑戦に取り組む余裕がないという声が見られた。また、資金不足も大きな阻害要因として挙げられており、活動や挑戦を始めるための初期資金や投資が難しいという課題が共有された。

さらに、必要な知識や経験が不足していること、相談できる相手や仲間がいないこと、イベント開催の許可や制度などの情報が分からないことなど、情報やネットワークの不足も実行を妨げる要因として指摘された。加えて、体力やモチベーションの維持、実行する強い意志が続かないといった心理的な側面も一部の参加者から挙げられ、社会人ならではの現実的な制約が浮かび上がった。

グループディスカッション②「実現に向けたアプローチ検討」

こうした課題に対して、実現に向けたアプローチとしては、時間を生み出すための業務効率化やツール活用、必要な情報を迅速に得られる仕組みづくり、仲間や人脈を広げる機会の創出などが提案された。また、行政や地域と連携した取り組みや、若者が挑戦できる場所や機会の整備、必要な資格や知識を学べる環境づくりなど、個人の努力だけでなく社会的な仕組みとして挑戦を支える必要性も示された。

(ウ) 事後アンケート結果

＜設問1＞本日の満足度について教えてください。(1：大変不満～10：大変満足)
＜設問2＞上記の満足度の理由を教えてください。

- ・ 回答数：10名
- ・ 合計点：94点
- ・ 平均満足度：9.4／10点
- ・ 中央値：10

＜満足度＞10点：6名

＜理由＞活発な意見交換ができて楽しかった、人とのつながりができた、本音で語り合うことができ新しい視点の意見を学べた、同世代の人と交流しながら自分のやりたいことを考えることができた

＜満足度＞19点：2名

＜理由＞知らない人と出会えた、さまざまな業種の人と話すことができた

＜満足度＞18点：2名

＜理由＞スムーズな進行で意見交流の場として良かった、普段関わりのない企業の人と話すことができた

＜傾向＞

ワークショップ終了後に実施した満足度アンケート（10点満点）では、回答者10名の平均満足度は9.4点と非常に高く、10点の回答が全体の過半数を占めており、多くの参加者がワークショップを高く評価していることが確認された。

理由としては、活発な意見交換ができたこと、同世代とのつながりが生まれたこと、普段関わることのない業種の人と交流できたことなど、参加者同士の交流や対話に関する評価が多く見られた。また、本音で語り合うことで新しい視点を得られたことや、自分のやりたいことを改めて考えるきっかけになったことなど、対話を通じた気づきや学びにつながったという意見も見られた。全体として、異なる業種や立場の参加者同士が交流し、多様な考え方に触れられた点が、ワークショップの満足度の高さにつながっていると考えられる。

(エ) 考察

社会人回のワーク結果およびアンケート結果を総合すると、参加者は資格取得やスキル向上、事業創出、地域イベントの実施など、仕事や地域活動、生活の充実に関わる多様な「やりたいこと」を持っていることが確認された。

一方で、その実現を阻む要因として、仕事の忙しさによる時間不足や資金不足、知識・経験の不足、人脈や相談相手の不足などが共通して挙げられ、社会人ならではの現実的な制約が浮かび上がった。また、アンケートでは参加者同士の交流や意見交換を評価する声が多く、異なる業種や立場の人と本音で対話できる場が、新たな視点や行動意欲を生むきっかけとなっていることが確認された。

これらの結果から、社会人の挑戦を後押しするためには、時間創出や情報共有、人脈形成の機会づくりなど、地域全体で支える仕組みの整備が重要であると考えられる。



当日の実施風景（一部）

ウ.学生回・社会人回の比較および考察

学生回、社会人回のワーク内容を元に、比較及び考察を行った。

個人ワーク「やりたいこと／やれない理由」の言語化

学生回では、海外に行きたい、カフェをつくりたい、マルシェに出店したい、研究活動に取り組みたいといった、興味関心や夢に近い目標が多く挙げられていた。また、人脈を広げたい、金融の知識を学びたいといった自己成長に関する内容も多く、将来の可能性を広げたいという志向が強く表れていた。

これに対して社会人回では、資格取得やスキル向上、地域イベントの開催、事業づくりといった、仕事や地域活動と結びついたより具体的な目標が多く見られた。また、旅行や休暇の取得、家を建てるといった生活面の充実に関する内容も挙げられており、仕事・地域活動・生活のバランスを意識した目標設定になっている点が特徴であった。

学生が将来の可能性や自己実現に焦点を当てているのに対し、社会人は現在の生活や仕事の中で実現可能な挑戦を考える傾向が見られたと言える。

グループディスカッション①「阻害要因の共通点・違い探し」

一方で、「やりたいこと」を実現できない理由として挙げられた要因についても、学生回・社会人回の双方で共通点が多く見られた。特に「資金」「時間」「知識」「人脈」といった要素は、どのグループでも繰り返し挙げられており、挑戦を阻む主要な障壁として認識されていることが分かった。これらは個人の努力のみでは解決が難しい場合も多く、挑戦を支える環境や支援の仕組みの重要性が示唆される結果となった。

ただし、学生と社会人では、その内容や背景には一定の違いも見られた。学生回では、何から始めればよいのか分からない、相談できる仲間がないといった「挑戦の入口」に関する不安が多く見られたことも特徴である。加えて、自分に自信がない、居場所が欲しいといった心理的要因も一定数挙げられており、自己理解や仲間とのつながりを求める傾向が確認された。

これに対し社会人回では、時間不足や仕事の忙しさ、体力の問題など、社会人としての生活や業務との両立に関する課題が多く指摘された。さらに、資金や情報だけでなく、イベント開催のルールや制度が分からないといった実務面の障壁も挙げられており、挑戦の段階が学生よりも一歩進んでいることがうかがえる。

グループディスカッション②「実現に向けたアプローチ検討」

実現に向けたアプローチの議論についても、学生と社会人で若干の違いが見られた。学生回では、資金的支援や挑戦の機会の増加、人脈を広げる機会の創出など、「挑戦を始めるためのきっかけづくり」に関する提案が多く見られた。

一方、社会人回では、業務効率化による時間創出、情報を得やすくする仕組み、行政や地域との連携、挑戦できる場所の整備など、「既存の活動を実行・拡大するための環境づくり」に関する提案が中心となった。

(4) 考察

これらの結果から、若者が挑戦を実現していくためには、学生と社会人それぞれの段階に応じた支援が必要であると考えられる。学生に対しては、仲間や人脈と出会える場や挑戦のきっかけとなる機会を提供することが重要であり、自分の興味関心を社会の中で形にしていける経験を積める環境が求められる。

一方、社会人に対しては、時間や情報の不足といった現実的な制約を緩和する仕組みや、地域や行政と連携して実践的な活動を進められる環境の整備が必要である。

総合的に見ると、学生・社会人いずれの世代においても挑戦への意欲は存在しているものの、**その実現を支える環境やネットワークが十分とは言えない状況**が明らかになった。今後は、挑戦したい人同士がつながるコミュニティの形成や、資金・情報・場所といったリソースを共有できる仕組みづくりと導線づくりを進め、世代を超えて挑戦を後押しする地域環境を整えていくことが重要であると考えられる。

3.個別ヒアリング

(1) 調査概要

ア.実施目的：

個別ヒアリングは、Webアンケートおよびワークショップでは把握しきれない、若者一人ひとりの地域との関わり方や意識の背景、価値観、感情の動きなどをより具体的に把握することを目的として実施した。

特に、地域に関わりたい気持ちを持ちながらも行動に移せていない人や、地域との距離を感じている人に着目し、その背景にある経験や心理、生活環境、地域に対する期待を丁寧に聞き取ることで、地域参加の阻害要因や参加促進の条件を質的に明らかにすることを目的とする。

また、属性や立場によって異なる地域への向き合い方やニーズを把握し、Webアンケートで得られた定量的な傾向や、ワークショップで得られた対話的な知見を補完しながら、今後の施策立案や若者との関係づくりに資する基礎資料とすることを目指した。

イ.選定・依頼方法：

Webアンケートに回答いただいた方の中から、以下に当てはまる回答者を中心に選定・依頼を行った。

地域との接点

- ・ <設問1>地域活動に参加したことはありますか？
=抽出条件：「いいえ」と回答

地域への関心度

- ・ <設問1>「現在住んでいるこおりやま広域圏の地域」または「ゆかりのあるこおりやま広域圏の地域」に関わりたい気持ちはどのくらいありますか？
 - ・ <設問5>将来も現在お住まいの地域に住み続けたいと思いますか？
- =抽出条件：①または②の回答が6以上（10段階中）

行動阻害要因

- ・ <設問3>活動に参加しやすくなる要素は？

期待とニーズ

- ・ <設問1>地域活動に参加するなら、どのような「参加形態」を希望しますか？
- =上記設問に回答の選択あり（ある程度イメージ・言語化できている）

ヒアリング協力

- ・ <設問>回答内容に応じて、後日ヒアリング調査をお願いする場合があります。その際、ヒアリング調査にご協力いただけますか？
=抽出条件：「協力する」と回答

ウ.実施方法：

オンライン（Google Meet）・対面（郡山市立中央公民館 3F ほぼいえ）

エ.実施時間：30分程度

オ.実施人数：合計19名

<内訳>

- ① 高校生：6名
- ② 大学生（県内在住）：1名
- ③ 大学生（県外在住）：3名
- ④ 社会人：9名

カ.実施内容：

- Q1. 自己紹介と今の生活（導入・アイスブレイク）
- Q2. 地域との関わりの原体験
- Q3. “地域に関わりたい”と思う瞬間
- Q4. 逆に“距離を感じる”場面
- Q5. モチベーションの源泉
- Q6. もし地域で「こんなことができたら」
- Q7. サポートへの期待
- Q8. 最後にひとこと

※ヒアリング実施時に使用したヒアリングシートは、IV.付録「3.ヒアリングシート」に記載。

(2) 調査結果

ア.回答一覧

以下に、ヒアリング調査に協力していただいた19名の属性と、設問ごとの回答を記載する。

(ア) 回答者1 | 属性：男性・20代・社会人・県内

Q1. 自己紹介と今の生活（導入・アイスブレイク） <ul style="list-style-type: none">・二本松市役所勤務・InstagramやTikTokなど、SNSで郡山の情報を探す
Q2. 地域との関わりの原体験 <ul style="list-style-type: none">・仕事におけるイベントで子ども向け企画を実施・自治体職員としてイベント運営に関わる経験あり・行政は前例踏襲が多く自由な企画が難しいと感じる
Q3. “地域に関わりたい”と思う瞬間 <ul style="list-style-type: none">・同じ価値観の人とゆるくつながれるコミュニティがあると感じた時
Q4. 逆に“距離を感じる”場面 <ul style="list-style-type: none">・既存コミュニティの輪が強いと新規参加が難しい・常連中心のコミュニティは入りづらい
Q5. モチベーションの源泉 <ul style="list-style-type: none">・「楽しそう」「自分にメリットがありそう」と感じたとき・イベントの楽しさが見えると参加しやすい
Q6. もし地域で「こんなことができたなら」 <ul style="list-style-type: none">・大学生が社会人の話や就活事情を聞けるイベント・若いうちに進路の情報を得られる機会
Q7. サポートへの期待 <ul style="list-style-type: none">・行政の縦割りを超えた連携・分野横断型の大規模イベント・行政と民間が連携した取り組み
Q8. 最後にひとこと <ul style="list-style-type: none">・大学がある地域での取り組みは重要・県外大学生も郡山で過ごしやすい環境が必要・福島を象徴するイベントを郡山で開催してほしい

(イ) 回答者2 | 属性：男性・高校3年生・県内

Q1. 自己紹介と今の生活（導入・アイスブレイク） <ul style="list-style-type: none">・郡山市内の高校に在学中・2025年度時点で高校3年生
Q2. 地域との関わりの原体験 <ul style="list-style-type: none">・地域活動への直接参加経験はほぼない・地域に恩返ししたいという思いはある
Q3. “地域に関わりたい”と思う瞬間 <ul style="list-style-type: none">・人助けをしている人を見た時
Q4. 逆に“距離を感じる”場面 <ul style="list-style-type: none">・ボランティアが部活動と時間が重なる・一人ではイベントに参加しづらい
Q5. モチベーションの源泉 <ul style="list-style-type: none">・地域活動をしている同世代を見て刺激を受ける・「かっこいい」と感じる人の存在
Q6. もし地域で「こんなことができたなら」 <ul style="list-style-type: none">・年齢関係なく交流できるイベント・体を動かせるイベント・イベント運営への参加
Q7. サポートへの期待 <ul style="list-style-type: none">・若者向けの商業施設や遊べる場所・テーマパークやアトラクション・流行の店舗誘致
Q8. 最後にひとこと <ul style="list-style-type: none">・遊び場や飲食店が少ない・電車本数が少なく不便・若者が行きたくなる店が必要

(ウ) 回答者3 | 属性：女性・大学1年生・県外

Q1. 自己紹介と今の生活（導入・アイスブレイク）

- ・郡山市出身、大学進学を機に岩手に引越し
- ・岩手の大学に在学する大学1年生

Q2. 地域との関わりの原体験

- ・小中学生の頃は町内会の祭り程度
- ・大学では地域共創授業などで地域活動経験
- ・大学サークルで商品販売企画や外部企業の企画にも参加

Q3. “地域に関わりたい”と思う瞬間

- ・自分の活動で誰かが喜ぶ瞬間

Q4. 逆に“距離を感じる”場面

- ・活動場所が遠い
- ・交通費など金銭的負担

Q5. モチベーションの源泉

- ・好奇心
- ・知らない世界を知りたい気持ち

Q6. もし地域で「こんなことができたら」

- ・郡山名産品を販売する企画
- ・高校生とのコラボ企画

Q7. サポートへの期待

- ・活動参加にかかる交通費補助
- ・初心者歓迎の明確な表示
- ・年齢の近いメンター制度

Q8. 最後にひとこと

- ・新しいアイデアを受け入れる地域風土が必要
- ・挑戦的なアイデアも受け入れる文化が重要

(工) 回答者 4 | 属性：男性・20代・社会人・県外

<p>Q1. 自己紹介と今の生活（導入・アイスブレイク）</p> <ul style="list-style-type: none">・須賀川市出身、仙台市在住・理容師、仙台の店舗で店長・結婚を機に仙台へ移住・子どもが生まれてからは2か月に1回ほど福島へ帰省
<p>Q2. 地域との関わりの原体験</p> <ul style="list-style-type: none">・須賀川の小中学校時代に松明づくりに参加・地域の祭り文化に関わった経験
<p>Q3. “地域に関わりたい”と思う瞬間</p> <ul style="list-style-type: none">・地元で家族や友人がいるため自然と関心がある・こおりやま広域圏への関心は高い
<p>Q4. 逆に“距離を感じる”場面</p> <ul style="list-style-type: none">・活動時間の長さや頻度・活動情報が分かりにくい・活動場所への移動負担・仕事柄休みが少なく時間確保が難しい
<p>Q5. モチベーションの源泉</p> <ul style="list-style-type: none">・人が喜んでくれること・人と直接関わること・家族の存在
<p>Q6. もし地域で「こんなことができたなら」</p> <ul style="list-style-type: none">・子ども支援活動・地域産業応援イベント・家族参加型イベント
<p>Q7. サポートへの期待</p> <ul style="list-style-type: none">・平日開催のイベント・若者や子どもが学びやすい環境・進学支援などの金銭的サポート
<p>Q8. 最後にひとこと</p> <ul style="list-style-type: none">・個人だけでなく、組織として何かを成す楽しさを知る機会が大切だと感じる

(オ) 回答者 5 | 属性：女性・20代・社会人・県内

<p>Q1. 自己紹介と今の生活（導入・アイスブレイク）</p> <ul style="list-style-type: none">・二本松市出身、郡山市在住・食品会社の営業職・県外の調理専門学校卒業後、郡山へUターン
<p>Q2. 地域との関わりの原体験</p> <ul style="list-style-type: none">・学生時代の地域イベント参加
<p>Q3. “地域に関わりたい”と思う瞬間</p> <ul style="list-style-type: none">・地元の人と交流する場・地域イベント
<p>Q4. 逆に“距離を感じる”場面</p> <ul style="list-style-type: none">・仕事で時間が取れない・参加情報が届きにくい
<p>Q5. モチベーションの源泉</p> <ul style="list-style-type: none">・人との交流・自分の経験が誰かの役に立つこと
<p>Q6. もし地域で「こんなことができたら」</p> <ul style="list-style-type: none">・食に関するイベント・地域交流の場
<p>Q7. サポートへの期待</p> <ul style="list-style-type: none">・若者が参加しやすい仕組み・情報発信
<p>Q8. 最後にひとこと</p> <ul style="list-style-type: none">・若者が気軽に关われる場づくりを頑張ってほしい

(カ) 回答者6 | 属性：女性・20代・社会人・県内

Q1. 自己紹介と今の生活（導入・アイスブレイク）

- ・郡山市出身、須賀川市在住
- ・結婚を機に須賀川へ移住（夫が須賀川在住）
- ・休日や買い物では郡山へ行くことも多い

Q2. 地域との関わりの原体験

- ・地域の活動やイベントに誘われることがある
- ・異業種交流会にも参加経験あり

Q3. “地域に関わりたい”と思う瞬間

- ・郡山が大好きで、本当は地元を離れなくなかったと感じている
- ・一方で、須賀川には郡山にはなかった魅力もある
- ・その地域ならではの魅力を感じると、地域に対して愛着が湧く

Q4. 逆に“距離を感じる”場面

- ・子どもがいるため、平日夕方～夜の開催は参加が難しい

Q5. モチベーションの源泉

- ・自分が楽しいと感じられること、好きだと思えること

Q6. もし地域で「こんなことができたなら」

- ・AI活用系のイベントやセミナー
- ・独自でAIを活用しており、プロの活用方法を知りたい
- ・実際に事業を立ち上げた人と直接話したい

Q7. サポートへの期待

- ・イベント時に託児ができる環境（特に夕方～夜）
- ・未就学児だけでなく小学生も短時間預かれる仕組み
- ・買い物やマルシェ開催中の数時間預かり
- ・自身の活動を発信できる場が欲しい。
- ・地域で行われるイベントについて、問い合わせ先が一目で分かる、情報が集約されたプラットフォーム（掲示板のような存在）が欲しい
- ・運営団体によってはSNS発信がなく、地域ごとに検索できる仕組みがあると良い

Q8. 最後にひとこと

- ・子どもへの支援をより手厚くしてほしい

(キ) 回答者7 | 属性：女性・大学1年生・県内

Q1. 自己紹介と今の生活（導入・アイスブレイク）

- ・郡山市出身、在住
- ・いわきの大学へ進学したが、実家から通っている
- ・将来は教員になりたいと考えており、「福島県に恩返ししたい」という思いがある

Q2. 地域との関わりの原体験

- ・高校時代にこおりやま広域圏学びの広場「ほぼいえ」や、Z世代カンファレンスに参加

Q3. “地域に関わりたい”と思う瞬間

- ・郡山に強い思い入れがある
- ・いわきに来てから、「郡山の方が若者向けイベントや支援制度が充実している」と感じ、その違いを実感したことで、より郡山への関心が高まった

Q4. 逆に“距離を感じる”場面

- ・既にできあがっているコミュニティに新しく入るのは勇気がいる

Q5. モチベーションの源泉

- ・「教員になりたい」という思い
- ・教員は親の次に身近な存在であり、高校2・3年生の担任が恩師

Q6. もし地域で「こんなことができたら」

- ・子どもたちに関われるボランティア活動（勉強を教えるなど）

Q7. サポートへの期待

- ・地域に自習室がもっと増えるとよい
- ・中央公民館と図書館の休館日が重なると、座席の取り合いになることがある。
- ・交通の便の改善
- ・現在、郡山～いわきを高速バスで通学しているが、運賃の値上げや時間帯の不便さを感じている

Q8. 最後にひとこと

- ・高校時代に刺激をもらった課外活動に感謝している
- ・自分も将来、未来に残せる何かをつくりたい

(ク) 回答者 8 | 属性：男性・高校3年生・県内

Q1. 自己紹介と今の生活（導入・アイスブレイク）

- ・ 鏡石町出身・在住
- ・ 郡山市のデザイン関係の高校に在学、2025時点で高校3年生
- ・ プログラミング（JavaScript）を学び、3D制作やゲーム開発に取り組んでいる

Q2. 地域との関わりの原体験

- ・ SDGsに関する研究発表や、福島に関する表現のプログラムに参加
- ・ 「福島はもっと良い県」というメッセージを発信したいと感じている

Q3. “地域に関わりたい”と思う瞬間

- ・ まずは「やりたい」という気持ちで応募することが多い
- ・ 活動を通して、関わる社会人から多くのことを学んできた経験が、継続的な関心につながっている

Q4. 逆に“距離を感じる”場面

- ・ 年齢制限（大学生以上など）の表記が不透明な場合がある。
- ・ 宿泊を伴うプログラムで、詳細や費用負担が明確でない場合は参加しづらい
- ・ 実費負担が大きいと厳しい

Q5. モチベーションの源泉

- ・ 他校の高校生や社会人と交流できること
- 学校内では出会えない人たちとつながることが大きな動機となっている

Q6. もし地域で「こんなことができたなら」

- ・ 老若男女が参加できるコミュニティをつくりたい
- ・ 年齢や職業の制限なく、学生と社会人が混合で活動できるプログラム
- ・ 鏡石町で子ども食堂を始めたい

Q7. サポートへの期待

- ・ 学生向けの支援制度がより充実すると嬉しい

Q8. 最後にひとこと

- ・ 地域内にはボランティアや地域活動が数多くある
- ・ それらをより多くの人に届けるため、コミュニティの整備が重要だと感じている
- ・ 学生の可能性を広げ、経済的負担を軽減できれば、参加しやすい環境になると考えている

(ケ) 回答者9 | 属性：男性・20代・社会人・県内

Q1. 自己紹介と今の生活（導入・アイスブレイク）

- ・郡山市出身、二本松在住
- ・関西の大学を卒業後、Uターンして郡山市役所に勤務
- ・現在は本宮市役所勤務
- ・4年前、本宮市役所へ通勤しやすいことを理由に二本松へ移住
- ・現在も郡山へ足を運ぶことは多い

Q2. 地域との関わりの原体験

- ・プライベートで地域活動に関わった経験は特にはないが、市役所職員としてイベントなどに顔を出す機会はある

Q3. “地域に関わりたい”と思う瞬間

- ・仕事に慣れてきたことで、徐々に地域活動にも興味を持つようになった
- ・特に、祭り関係の団体に関わってみたいと考えている

Q4. 逆に“距離を感じる”場面

- ・参加したいと思っても、どのようにアクションを起こせばよいか分からない
- ・募集チラシなども特に見かけないため、入り口が見えづらいと感じている

Q5. モチベーションの源泉

- ・祭りやイベントについては、運営の裏側を知ることが一つのモチベーションになっている

Q6. もし地域で「こんなことができたら」

- ・地元で、20代～40代が集まれる音楽系のラフなイベント
- ・地域で新鮮な農産物を販売する朝市があれば嬉しい

Q7. サポートへの期待

- ・祭り開催時の交通規制について、事前通知をより分かりやすくしてほしい
- ・理想としては、1ヶ月前から現地に看板を設置し、ホームページなどでも周知希望

Q8. 最後にひとこと

- ・Z世代の中には、祭りや飲み会に対してネガティブな印象を持つ人もいるかもしれない
- ・しかし、とりあえず一度参加してみると、意外と楽しいと感じることもあるはず

(コ) 回答者10 | 属性：男性・高校3年生・県内

Q1. 自己紹介と今の生活（導入・アイスブレイク）

- ・郡山市出身・在住
- ・郡山市内の高校に在学、2025年度時点で高校3年生
- ・進学当初は地域の公務員志望で、「福島に貢献したい」という思いを持っていた
- ・現在は、東京の音楽大学（声楽科）への進学を予定。
- ・小学校から合唱を続けており、将来は高校の先生になりたいと考えている

Q2. 地域との関わりの原体験

- ・郡山市内のイベントやボランティア活動に参加

Q3. “地域に関わりたい”と思う瞬間

- ・「楽都郡山」という言葉がある
- ・将来的には、音楽を通して福島に貢献できるような形で地域に関わりたい

Q4. 逆に“距離を感じる”場面

- ・知り合いがいないと参加しにくい

Q5. モチベーションの源泉

- ・「福島に貢献したい」という思い
- ・福島が好きで、人がとても温かく、魅力がたくさんあると感じている
- ・中学3年生の頃から、「楽しい場所がないと若者が県外に出ていってしまうのではないか」と考えていた

Q6. もし地域で「こんなことができたら」

- ・外国人向けの日本語教室などのボランティア活動

Q7. サポートへの期待

- ・ボランティア募集の情報を知る機会を増やして欲しい
- ・郡山市内で遊べる場所が限られているため、子ども～高校生が遊べる場所があると嬉しい
- ・「楽都」と言われているが、音楽活動ができる場所は数か所の大ホールに限られているため、小規模でもよいので、演奏や活動ができる場所が増えてほしい

Q8. 最後にひとこと

- ・郡山を含め、福島県は本当に良いところだと感じている
- ・関東圏の人が知らない魅力がたくさんあるため、もっと知ってほしい
- ・将来は福島の魅力を広める活動をしたい
- ・福島愛を育める先生になりたいと考えている

(サ) 回答者 11 | 属性：男性・高校1年生・県内

<p>Q1. 自己紹介と今の生活（導入・アイスブレイク）</p> <ul style="list-style-type: none">・郡山市出身、在住・郡山市内の高校に在学、2025年度時点で高校1年生・福島の魅力を多くの人に知ってもらおう活動に関心がある
<p>Q2. 地域との関わりの原体験</p> <ul style="list-style-type: none">・郡山市内で開催された自己プレゼンのイベントに参加
<p>Q3. “地域に関わりたい”と思う瞬間</p> <ul style="list-style-type: none">・「日本全国を観光してみたい」という思いもあり、アクセスや交通環境がより便利になればより関わりたくなる
<p>Q4. 逆に“距離を感じる”場面</p> <ul style="list-style-type: none">・初参加、知り合いがいないと初めは少し緊張する
<p>Q5. モチベーションの源泉</p> <ul style="list-style-type: none">・漫画の主人公のように、「まずはやってみよう」という姿勢・難しく考えすぎずに挑戦することを大切にしている
<p>Q6. もし地域で「こんなことができたなら」</p> <ul style="list-style-type: none">・交流と運動を組み合わせたイベント（大運動会など）
<p>Q7. サポートへの期待</p> <ul style="list-style-type: none">・若者向けの国内外ツアーへの一部補助など、移動や挑戦を後押しする支
<p>Q8. 最後にひとこと</p> <ul style="list-style-type: none">・郡山に人が集まる施設が増え、人同士の交流がもっと生まれてほしい・会話が自然に生まれる場所が増えてほしい（多文化交流型の飲食店など）

(シ) 回答者12 | 属性：女性・大学3年生・県外

Q1. 自己紹介と今の生活（導入・アイスブレイク）

- ・須賀川市出身、郡山市に長く住んでいた
- ・大学進学を機に上京し、現在は看護・助産師課程の大学3年生
- ・福島県内には希望する学部がなかったため、県外進学を選択した
- ・福島県内にある某病院にて、「ここならやりたいことを実現できそう」と感じ、就職を希望している
- ・「福島の人を救いたい」という思いが根底にある

Q2. 地域との関わりの原体験

- ・継続的な地域ボランティア活動に参加
- ・病院でのインターンを通じて地域医療の現場を体験した

Q3. “地域に関わりたい”と思う瞬間

- ・上京し、一人暮らしを始めたことで、実家の温かみや地元のありがたさを実感
- ・「福島は本当に温かい地域」と感じている

Q4. 逆に“距離を感じる”場面

- ・様々なイベント情報を得るのが難しいと感じた
- ・知り合いがいないと参加しにくい

Q5. モチベーションの源泉

- ・東日本大震災の経験
- ・当時、救える命を救いきれなかった現実への悔しさ
- ・福島が過疎化し落ち込んでいく一方で、地域を盛り上げようと頑張る人たちの存在
- ・自分もその一員となり、有事の際に一人でも多くの福島の人を救いたいという強い思いが原動力

Q6. もし地域で「こんなことができれば」

- ・傾聴ボランティア
- ・子どもに関わる活動
- ・性教育に関する取り組み

Q7. サポートへの期待

- ・やりたいことを持つ若者が、気軽に相談できる環境
- ・若者同士が応援し合い、背中を押し合える仕組みがあるとよい

Q8. 最後にひとこと

- ・福島の人を救える存在になりたい

(ス) 回答者13 | 属性：男性・高校2年生・県内

Q1. 自己紹介と今の生活（導入・アイスブレイク）

- ・郡山市出身、在住
- ・郡山市内の高校に在学、2025年度時点で高校2年生
- ・ロードバイクや水泳、マラソンなどスポーツに幅広く取り組んでいる

Q2. 地域との関わりの原体験

- ・郡山シティマラソンにほぼ毎年参加
- ・福島県内のレースには多数参加している

Q3. “地域に関わりたい”と思う瞬間

- ・人が温かく、気候も比較的穏やかで、スポーツを楽しむやすい環境
- ・地域でスポーツを通じて楽しみたい

Q4. 逆に“距離を感じる”場面

- ・スポーツイベントにおいて、参加対象が明記されておらず、社会人向けに感じてしまい、参加しづらい印象を受けることがある

Q5. モチベーションの源泉

- ・仲間やコーチ、沿道からの応援など、周囲からの応援の力

Q6. もし地域で「こんなことができたら」

- ・スポーツに限らず、チーム戦で競争できるイベント

Q7. サポートへの期待

- ・大通りであっても自転車が走りにくい場所がある
- ・路面の状態が悪く、大きな石があるなど安全面での課題を感じるため対応してほしい

Q8. 最後にひとこと

- ・人生を通して、スポーツは「楽しく続けること」が大切だと思う
- ・何よりも「体が健康であること」が大切
- ・年齢に関係なく、「まずは体を元気に！」というコンセプトの取り組みが増えて欲しい

(セ) 回答者 14 | 属性：女性・20代・社会人・県内

Q1. 自己紹介と今の生活（導入・アイスブレイク）

- ・福島市出身、在住
- ・岩手県の大学に進学後、Uターンして現在は福島市内の企業で就職
- ・関東就職とも悩んだが、家族や友人が福島市にいることも大きな理由となった

Q2. 地域との関わりの原体験

- ・学生時代に、地域ツアーや長期インターン、学生団体イベントに参加

Q3. “地域に関わりたい”と思う瞬間

- ・大きなきっかけというよりも、日々の積み重ねの中で福島への愛着が育まれた
- ・大学進学で福島を離れた際に、福島が恋しいと強く感じた
- ・特に大学2年生頃は、その思いが最も強かった

Q4. 逆に“距離を感じる”場面

- ・既に来上がっているコミュニティには参加しづらさを感じる（内輪の雰囲気）
- ・初めてイベントに行く際、知り合いがいなくて行きにくいと感じる

Q5. モチベーションの源泉

- ・根底にあるのは「誰かに必要とされたい」という思い
- ・他者との関係性を通して自分自身を知ることができると感じている
- ・他者とのつながりが、自分の人生を形づくる原点になっている

Q6. もし地域で「こんなことができたなら」

- ・単発イベントは参加しやすい
- ・副業的に週1回から定期的に関われる活動があれば参加したい
- ・スキルを活かし、地域をスポット的にサポートできるような機会に関心がある

Q7. サポートへの期待

- ・初めてコミュニティに入る際のハードルを下げる工夫
- ・学生向けの挑戦の基盤は整ってきていると感じるが、社会人向けの基盤はまだ不足している
- ・社会人向けにも、短期インターンや自己探究の機会など、挑戦できる場があるとよい

Q8. 最後にひとこと

- ・「子ども心を忘れない社会人にも、挑戦する権利が欲しい」
- ・会社や家庭以外にも、自分の人生を豊かにできる場所があると良いと感じている

(ソ) 回答者15 | 属性：男性・高校3年生・県内

Q1. 自己紹介と今の生活（導入・アイスブレイク）

- ・二本松市出身、郡山市在住
- ・郡山市内の高校に在学し、2025年度時点で高校3年生
- ・中高では野球部に所属し、部活動中心の学校生活

Q2. 地域との関わりの原体験

- ・高校3年生の夏休みに、児童クラブでボランティア補助員として活動
- ・郡山市で開催された自己プレゼンのイベントに観覧として参加

Q3. “地域に関わりたい”と思う瞬間

- ・ボランティア活動には参加したいと思っている
- ・特に、子どもと関わる活動やイベント系のボランティアには関心がある

Q4. 逆に“距離を感じる”場面

- ・何も知らないまま高校生活を過ごしてきた感覚で、「やっておけばよかった」と強く後悔しているわけではないが、情報に触れる機会が少なかった

Q5. モチベーションの源泉

- ・自分は表に立つよりも、運営や支える側の方が性格に合っていると感じている
- ・参加者から「参加してよかった」と思ってもらえることがモチベーションになる

Q6. もし地域で「こんなことができれば」

- ・「楽都郡山」を掲げるなら、音楽関係の取り組みをもっと広げてほしいのではないかと感じている
- ・現在は合唱が強い、というイメージにとどまっており、学生世代の頑張りだけが目立っている印象がある
- ・もっと幅広い世代が関われる音楽企画があってもいいのではないかと

Q7. サポートへの期待

- ・周囲に知っている人がいれば、参加のハードルは大きく下がる
- ・大人と高校生だけでなく、年齢の近い大学生などが間に入るような構造だと、より参加しやすいと感じる

Q8. 最後にひとこと

- ・日和田周辺では交通量が多いにもかかわらず、片側1車線の道路が多く、慢性的な渋滞が発生している
- ・岩瀬書店北側周辺は特に混雑しており、毎日の生活の中で不便を感じている
- ・商業施設の開業により、さらに交通量が増えるのではないかと不安もある
- ・また、若者が気軽に行ける場所が少ないと感じている
- ・若者が集まれる、過ごせる場所がもっとあればよいと思う

(夕) 回答者16 | 属性：女性・20代・社会人・県外

Q1. 自己紹介と今の生活（導入・アイスブレイク）

- ・白河市出身、現在は関東圏在住
- ・高校で郡山市内の学校に進学し、合唱部に所属
- ・小学4年生から中学3年生までオーケストラ部に所属し、幼い頃から音楽に親しんできた
- ・「将来は、郡山で音楽をやりたい」という思いを抱きながら、関東の教育学部（音楽専攻）へ進学
- ・進学の動機は、「福島の教員になりたい」「福島の音楽文化に携わりたい」という明確なビジョンがあったから

Q2. 地域との関わりの原体験

- ・高校時代の合唱団では招待演奏が多く、SPALや郡山文化センターなどで演奏
- ・社会人になってから所属している、郡山市の合唱団でのコンテスト参加や年度末演奏会も、地域と音楽を通して結びつく体験だった

Q3. “地域に関わりたい”と思う瞬間

- ・郡山に対しては、強い感謝と愛着がある
- ・部活動を通して日々音楽に向き合い、質の高い指導・環境に恵まれたことが、今の自分の土台になっていると感じている

Q4. 逆に“距離を感じる”場面

- ・「楽都郡山」というブランドがあるからこそ、音楽活動を新たに始めるハードルの高さを感じることがある
- ・既に実績のある団体が多く、新しく始める人は少ない印象
- ・県外在住という立場では、県内で継続的に取り組まれている活動に入りにくい側面もある

Q5. モチベーションの源泉

- ・「音楽って楽しい」「音楽っていいな」と思える環境を作るのは教員の役割
- ・その学びを、誰もが享受できる社会を作りたいという思いが、地域への関わりたい気持ちにつながっている
- ・「社会が明るくなってほしい」「明るい未来を作りたい」という思いがある
- ・若い世代こそ力を合わせて、前向きな未来をつくっていけるはず

Q6. もし地域で「こんなことができたなら」

- ・自ら合唱団を立ち上げたい
- ・音楽を通して、人と人がつながる場をつくりたいという思いがある

Q7. サポートへの期待

- ・楽都として県内での取り組みは盛んだが、県内にとどまっている印象がある
- ・県を跨いだ広がりがあれば、より面白い展開ができるのではないかと
- ・個人の小さな挑戦を後押しする広報支援や相談窓口など、「小さく始める」ための基盤があるとありがたい

Q8. 最後にひとこと

- ・ 関東に出てみて、東北には「内に内に」と向かう文化があると感じた
- ・ しかし、地域が持っている素晴らしい資源をもっと外に向けて発信していけば、さらに面白いことができるはず
- ・ 福島の音楽文化も、もっと広く、外へと開いて行ってほしい

(チ) 回答者 17 | 属性：女性・20代・社会人・県内

Q1. 自己紹介と今の生活（導入・アイスブレイク）

- ・福島市出身、在住
- ・高校で郡山市内の学校に進学し、合唱部に所属
- ・現在は公務員（保育士）として勤務
- ・就職先に福島市を選んだ理由は、「実家から近いところで働きたかった」から
- ・現在も郡山市内の合唱団に所属しており、月2～3回は郡山へ通って活動している

Q2. 地域との関わりの原体験

- ・老人ホームで合唱を披露
- ・所属する合唱団で、郡山市でジョイントコンサートを開催

Q3. “地域に関わりたい”と思う瞬間

- ・保育の現場で、福島市の人との関わりの温かさを日々実感している
- ・また、福島は果物が美味しく、給食やおやつの質の高さも魅力の一つ

Q4. 逆に“距離を感じる”場面

- ・福島市では路上や公共空間でのライブ（弾き語りなど）があるが、合唱として参加できる機会は少ない

Q5. モチベーションの源泉

- ・歌には、人の心を元気にしたり、浄化したりする力があると感じている
- ・歌うこと自体が、自分自身のリフレッシュにもなっている
- ・音楽を通じて誰かの心に届くことが、大きな原動力

Q6. もし地域で「こんなことができたなら」

- ・歌や音楽に関する活動（路上・公共空間ライブ）
- ・子どもに関する取り組み（買い物中に一時的に子どもを預けられる環境づくり）

Q7. サポートへの期待

- ・子どものための地域ボランティアを充実させてほしい
- ・一時預かりの仕組みや、子どもを安心して任せられる環境づくり
- ・音楽活動における大会やコンサート参加費が高額なことが課題
- ・費用補助などがあれば、より多くの人に参加できるはず

Q8. 最後にひとこと

- ・子育てをしているお母さんたちの孤立や負担の大きさが、子どもにも伝わってしまっていると感じる
- ・その結果、子どもがのびのび育てていない現状が、地域の課題の一つではないか
- ・それを解決するアイデアを考え、一緒に動いていける保育士が増えたらいい
- ・子どもも大人も、安心して過ごせるまちづくりを目指したい

(ツ) 回答者18 | 属性：女性・大学1年生・県外

Q1. 自己紹介と今の生活（導入・アイスブレイク）

- ・いわき市出身、大学進学を機に関東圏へ移住
- ・郡山市内のイベントにも参加経験があり、ゆかりがある

Q2. 地域との関わりの原体験

- ・福島県大熊町でお祭りの運営を手伝った経験
- ・2025年度に郡山市内で開催されたイベントに参加

Q3. “地域に関わりたい”と思う瞬間

- ・関東で生活する中で、「地元に戻りたいな」と思う瞬間がある
- ・人の多さを実感した時に、より落ち着きのある福島が恋しくなる

Q4. 逆に“距離を感じる”場面

- ・基本的には「誘われたら行く」というスタンス
- ・自分から自発的に参加するかというと、交通費や時間のことを考えてしまい、ハードルが上がる

Q5. モチベーションの源泉

- ・交通費を出してもらえるかどうかは大きなポイント
- ・補助があるなら「絶対行く」と言える
- ・金銭的な負担の有無が、参加の大きな判断軸になっている

Q6. もし地域で「こんなことができたなら」

- ・ワークショップ形式の活動が好き
- ・地元の人と話し合ったり、グループディスカッションをしたりするような、対話型のイベントに参加したい

Q7. サポートへの期待

- ・海外留学に関する支援制度があれば知りたい
- ・交通費補助があると参加しやすくなる
- ・金銭的なサポートがあることで、行動のハードルが下がる

Q8. 最後にひとこと

- ・関東と比べすぎなくてもいいのではないかな
- ・都会と比較して劣っていると考えるのではなく、地域の良さにもっと自信を持ってほしいと思う
- ・地域の良さは、都会の良さと同じくらい価値があるはず

(テ) 回答者19 | 属性：女性・20代・社会人・県外

Q1. 自己紹介と今の生活（導入・アイスブレイク）

- ・郡山市出身、就職を機に関東圏へ移住
- ・郡山市内の大学で保育を勉強
- ・保育士として勤務
- ・小原田公民館で月1回の子ども食堂を継続実施している

Q2. 地域との関わりの原体験

- ・大学1年生の頃、「保育士としてそのまま働くだけでいいのかな」と感じた
- ・女性起業家への憧れもあり、子ども食堂という形で事業をスタートした

Q3. “地域に関わりたい”と思う瞬間

- ・自分には資金力がなく、お米や食材を用意するにも限界がある
- ・それでも、地元の人が協力してくれる
- ・「一人ではできない」と実感するからこそ、いろいろな人を巻き込みながら地域に関わりたいと思う

Q4. 逆に“距離を感じる”場面

- ・内輪だけで盛り上がっているように見える活動
- ・知らない人ばかりのイベント
- ・情報が行き届かず、気づいた時には終わっているイベント

Q5. モチベーションの源泉

- ・自分の野望や夢
- ・「こういう起業家になりたい」という明確なロールモデルがいる
- ・女性支援や子ども支援事業を将来的に展開したい
- ・送迎サービスや託児サービスなど、具体的な構想もある

Q6. もし地域で「こんなことができれば」

- ・都市部と田舎をつなぐ架け橋のような取り組みをしたい
- ・自然体験や地域交流を通じて、双方をつなげる活動に関心がある

Q7. サポートへの期待

- ・市役所の手続きが煩雑
- ・書類の多さや誤字脱字による再提出など、負担が大きい
- ・もう少し柔軟で寛容な対応があると動きやすい

Q8. 最後にひとこと

- ・新しいことを始めようとする、「何をやるの?」という色眼鏡で見られる雰囲気がある
- ・挑戦を応援する空気をもっと広がれば、若い世代の挑戦は増えるはず

イ.集計・分析

以下、19名のヒアリング結果を踏まえ、「参加意欲のある分野」「Z世代が地域活動に対して抱く阻害要因」「行政への具体的な期待」の3点について整理する。

(ア) 「参加意欲のある分野」

まず、参加意欲のある分野については、大きく五つの傾向が見られた。第一に、**子どもや教育に関わる分野**である。子ども向けイベント、子ども食堂、勉強を教えるボランティア、子どもの居場所づくり、保育や教育に関する活動などへの関心が複数の回答者から挙げられた。特に、高校生・大学生・保育や医療を志す若者、子育て世代の社会人において、子ども支援への関心は高い傾向が見られた。

第二に、**交流・コミュニティ形成に関する分野**である。年齢を問わず交流できるイベント、同世代がラフにつながる場、家族参加型イベント、学生と社会人が混ざるプログラム、対話型ワークショップなど、「人と人が自然につながる場」への参加意欲が高かった。

第三に、**地域資源の発信や活用に関する分野**である。郡山名産品の販売、地域産業の応援、農産物の販売、福島の魅力発信、都市部と地域をつなぐ活動など、地域の特色を生かした取り組みへの関心も見られた。

第四に、**文化・音楽・スポーツに関する分野**である。合唱団の立ち上げ、音楽イベント、外国人向け日本語教室、体を動かせるイベント、チーム戦の企画、スポーツを通じた交流など、個人の得意分野や趣味を地域に接続したいという意向が確認された。

第五に、**学びやキャリア形成に関する分野**である。就活の情報を得られる場、社会人の話を聞ける機会、AI活用セミナー、留学支援、進路や挑戦に関する情報提供など、自己成長と地域参加を結び付けた機会へのニーズも大きい。

(イ) 「Z世代が地域活動に対して抱く阻害要因」

次に、Z世代が地域活動に対して抱く阻害要因について整理すると、最も大きいのは**情報面の課題**である。イベントや募集情報が届きにくい、どこで何をしているのか分からない、募集対象や費用条件が不明確、問い合わせ先が分からない、といった声が多く見られた。活動そのものが存在していても、情報が分散していたり、初参加者向けに整理されていなかったりすることで、参加の入口が見えにくくなっている。

次に大きいのは**心理的ハードル**である。既に出来上がったコミュニティに入りづらい、常連中心に見える、知り合いがいないと参加しにくい、初参加は緊張する、といった意見が複数確認された。特に若年層では、一人で参加することへの不安や、内輪感の強い場への抵抗感が強く表れている。また、時間や生活条件による制約も顕著であった。

高校生では部活動や受験、社会人では仕事や家庭、子育てとの両立が難しく、特に平日夕方から夜の開催や長時間拘束される活動は参加しづらいと捉えられている。加えて、交通費や参加費などの金銭的負担も大きな阻害要因となっており、県外在住の大学生や若手社会人を中心に、移動コストや実費負担の重さが参加判断に直結していた。

そのほか、活動場所までの距離、電車本数の少なさ、交通の便の悪さ、自転車や道路環境といった移動インフラ面の課題も見られた。さらに、地域活動における「前例踏襲」「新しい挑戦が受け入れられにくい空気」「小さな挑戦に対する色眼鏡」といった**文化的な障壁**も指摘されており、制度面だけでなく、地域の雰囲気そのものが参加や挑戦のしやすさに影響していることが分かる。

(ウ) 「行政への具体的な期待」

最後に、行政への具体的な期待について見ると、第一に求められているのは、**情報発信と情報集約の強化**である。地域イベントやボランティア情報、活動団体、参加条件、相談窓口などを一元的に分かりやすく発信する仕組みが求められている。特に、初心者歓迎の明示、対象年齢や費用負担の明確化、問い合わせ先の可視化、SNSを含めた検索しやすいプラットフォーム整備への期待が大きい。

第二に、**参加のハードルを下げる支援**である。交通費補助、進学支援、活動費補助、参加費支援などの金銭的サポートに加え、託児や一時預かり、家族参加型企画、平日開催など、ライフスタイルに合わせた参加環境の整備が求められている。

第三に、**初参加者や若者が入りやすい場づくり**である。メンター制度、大学生など年齢の近い中間支援者の配置、単発で気軽に参加できる機会、若者同士が応援し合える仕組みなどが期待されている。

第四に、**挑戦を後押しする行政の姿勢**である。縦割りを超えた連携、民間と行政の協働、分野横断型イベントの開催、小さく始める挑戦への広報支援や相談窓口の整備、煩雑な手続きの簡素化など、「やってみたい」を実際の行動につなげる伴走体制が求められている。

第五に、**地域の魅力向上そのものへの期待**である。若者向けの商業施設や遊び場、音楽やスポーツの活動場所、交流が自然に生まれる空間、交通環境の改善など、日常的に「この地域で暮らしたい」「関わりたい」と思える基盤づくりも、行政に期待される重要な役割として挙げられた。

ウ.考察

以上を総合すると、Z世代は地域に対して無関心なのではなく、子ども支援、交流、文化、学び、地域資源の発信など、幅広い分野に参加意欲を持っていることが確認できた。

一方で、その意欲が行動に結びつかない背景には、情報不足、心理的ハードル、時間・費用の制約、参加しにくい地域文化といった複合的な阻害要因が存在している。したがって、行政には単に機会を用意するだけでなく、「見つけやすい」「入りやすい」「続けやすい」環境を整えることが求められる。

特に、情報の整理・可視化、初参加者支援、生活条件に応じた柔軟な設計、小さな挑戦を受け入れる風土づくりを進めることが、今後の地域参加を促す上で重要である。

III. 総括

1. Webアンケート

Webアンケートでは、こおりやま広域圏にゆかりのある若者1,024名から回答を得ることができ、学生から社会人まで幅広い属性の意識を定量的に把握することができた。結果として、回答者の約7割が地域活動への参加経験を有しており、若者と地域との接点は一定程度存在していることが確認された。一方で、地域に関わりたい意識を持ちながらも、時間的負担、情報不足、仲間の不在、既存のコミュニティに入りづらい不安などが参加の障壁となっており、意欲が必ずしも行動に結びついていない実態も明らかとなった。

加えて、調査の認知経路としてはインターネット・SNSや知人からの紹介が大きな割合を占めており、若者への情報発信においては、デジタル媒体と身近なネットワークを組み合わせた周知が有効であることが示された。全体として、Webアンケートは、若者の地域参加に関する全体傾向と課題構造を把握するうえで、有効な基礎資料となった。

2. ワークショップ

ワークショップでは、Webアンケートだけでは把握しきれない若者の率直な思いや感情、挑戦に対する葛藤を対話を通じて可視化することができた。参加者からは、地域で何かを始めたい、自己成長につながる経験を得たい、人とつながりたいといった前向きな意欲が多く語られた一方で、資金不足、時間不足、情報不足、人脈不足、自信のなさといった複合的な阻害要因が共有された。

また、こうした課題に対しては、挑戦しやすい環境づくり、必要な情報や相談先にアクセスしやすい仕組み、同じ志向を持つ仲間と出会える場、安心して過ごせる居場所の必要性が示された。事後アンケートでも満足度は高く、対話や交流そのものが若者にとって価値ある機会となっていることが確認された。ワークショップは、若者の行動の背景にある心理や関係性の課題を立体的に捉えるとともに、施策の方向性を考えるうえで重要な示唆を得る場となった。

3.個別ヒアリング

個別ヒアリングでは、若者一人ひとりの経験や価値観、地域との距離感、行動に移れない背景をより具体的に把握することができた。参加意欲のある分野としては、子ども・教育、交流・コミュニティ形成、地域資源の発信や活用、文化・音楽・スポーツなどが挙げられ、若者の関心は多様であることが確認された。

また、地域活動に対する阻害要因としては、時間やお金の制約に加え、何から始めればよいか分からない、相談できる相手がない、既存の人間関係や雰囲気に入りにくい、挑戦が色眼鏡で見られるといった心理的・社会的な要因も大きいことが明らかとなった。行政への期待としては、情報発信の分かりやすさ、若者の挑戦を後押しする姿勢、柔軟で寛容な対応、安心して関われる場づくりなどが挙げられており、制度や事業だけでなく、若者との関係の築き方そのものが重要であることが示唆された。個別ヒアリングは、定量調査や対話型調査を補完し、若者の実感に根差した支援の方向性を具体化するうえで有効であった。

4.全体の総論

3つの調査を通じて明らかになったのは、こおりやま広域圏の若者は地域に対して無関心なのではなく、むしろ地域と関わりたい、何かに挑戦したい、人とつながりたいという意欲を一定程度有しているという点である。その一方で、実際の行動に移るまでには、時間や資金、情報、人脈の不足に加え、心理的な不安や地域の空気感といった複合的な壁が存在している。すなわち、課題は「意欲の欠如」ではなく、「行動化を支える環境の不足」にあると整理できる。

今後の施策においては、若者が必要な情報にアクセスしやすい発信、単発・短時間でも参加しやすい入口の設計、安心して挑戦や対話ができる居場所づくり、多様な関心に応じた実践機会の創出が重要となる。また、若者を単なる参加者として捉えるのではなく、地域の担い手・共創者として位置づけ、その声を施策や場づくりに反映していく視点が求められる。本調査は、若者の意欲を地域との持続的な関わりへとつなげていくために、環境整備と関係構築の両面から施策を検討する必要性を示すものである。

IV. 付録

1.Webアンケート調査票

【2025年度】こおりやま広域圏 Z世代意識調査

【こおりやま広域圏 Z世代アンケートへのご協力をお願い】

本アンケートは、こおりやま広域圏※1 にゆかりのある※2 13歳～30歳の皆様を対象に、地域との関わりや活動への意欲・関心についてお伺いするものです。※3.4

皆様の声は、今後の若者向け施策や地域イベントの企画等に活かしてまいります。

- 📍 所要時間：約5分
- 📍 内容：地域活動の経験・関心・参加しづらさ・期待など

📁 **参加特典：アンケートに回答いただいた方の中から、抽選で30名に特典をプレゼント！**

> 福島県産品詰め合わせ¥3,000相当、Starbucksギフトカード¥1,000、Amazonカード¥1,000 など

> ヒアリング調査にもご協力いただいた方は、当選確率がアップします。

※1 「こおりやま広域圏」：郡山市、須賀川市、二本松市、田村市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、磐梯町、猪苗代町、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町

※2 住んでいたことがある・親戚がいる・訪れたことがある・思い出がある...など

※3 回答内容は統計的に処理され、個人が特定されることはありません。

※4 回答内容に応じて、ヒアリング調査をお願いする場合があります。



同意確認

質問	選択肢
個人を特定されない形で、集計結果をデータとしてSNSやHPで公開することに同意しますか？	同意する

ア. 基本情報

質問	選択肢
設問1：年齢（必須）	プルダウン（13歳～30歳）
設問2：性別（必須）	男性 / 女性 / その他 / 回答しない
設問3：現在の立場（必須）	中学生 / 高校生 / 大学・短大・専門生 / 社会人 / 起業家・経営者 / その他...
設問4：こおりやま広域圏との関わり（必須）	出身 or 居住者である / 出身・居住者ではないが、ゆかりがある
設問5：この調査を知ったきっかけ（必須）	インターネット・SNS / 掲示物 / 知人・友人などからの紹介 / その他...

設問4：こおりやま広域圏との関わり（必須）

▶ 出身 or 居住者である と回答した方

質問	選択肢
設問6：出身地（必須）	郡山市 / 須賀川市 / 二本松市 / 田村市 / 本宮市 / 大玉村 / 鏡石町 / 天栄村 / 磐梯町 / 猪苗代町 / 石川町 / 玉川村 / 平田村 / 浅川町 / 古殿町 / 三春町 / 小野町 / その他...
設問7：居住地（必須）	同上

設問4：こおりやま広域圏との関わり（必須）

▶出身・居住者ではないが、ゆかりがあると回答した方

質問	選択肢
設問8：出身地（必須）	自由記述（県内：市区町村、県外：都道府県）
設問9：居住地（必須）	自由記述（県内：市区町村、県外：都道府県）
設問10：こおりやま広域圏内でゆかりのある地域（複数選択可）	郡山市 / 須賀川市 / 二本松市 / 田村市 / 本宮市 / 大玉村 / 鏡石町 / 天栄村 / 磐梯町 / 猪苗代町 / 石川町 / 玉川村 / 平田村 / 浅川町 / 古殿町 / 三春町 / 小野町
設問11：上記で回答した地域とは、どのようなゆかりがありますか？ 例) 訪れたことがある、 親戚が住んでいる、大学で通っていた、など	自由記述

イ. 地域との接点

ここでいう「地域活動」とは、自分と関わる地域社会をよりよくするため、課題を解決したり、交流したりする、下記の具体例などを指します。

- **地域イベント**：交流イベント、マルシェ、地域のお祭り・清掃活動など
- **学校・教育関連**：地域と関わる探究活動や課題研究、PTA活動など
- **ボランティア**：募金活動、子ども食堂の手伝い、高齢者支援、災害支援など
- **地域団体・NPO活動**：自治会、町内会、地域サークル、NPO・市民団体での活動など
- **個人や家族での参加**：地域行事への参加、農作業の手伝い、地域のお店や取り組みへの協力など
- **オンラインでの活動**：SNSで地域の魅力を発信する、地域イベントにオンラインで参加/サポートするなど

質問	選択肢
設問12：地域活動に参加したことはありますか？ (必須)	はい/いいえ

設問12：地域活動に参加したことはありますか？

▶ 「はい」と回答した方

質問	選択肢
設問13： 参加したきっかけ（複数回答可）	<ul style="list-style-type: none"> ・人から勧められた・誘われた(親や先生・知人・友人・先輩・後輩) ・SNSやチラシを見て ・自身の興味・関心 ・学校や職場で参加する機会があった ・地域の団体（町内会など）で参加する機会があった ・その他...
設問14： どんなジャンルの活動でしたか？（複数選択可）	<ul style="list-style-type: none"> ・文化（合唱、茶道、美術展など） ・スポーツ（サッカー、バスケ、マラソンなど） ・教育（探究活動、読書会、塾など） ・環境（森林保全、ゴミ拾い、エコなど） ・福祉（高齢者支援、子ども食堂、障がい者サポートなど） ・ビジネス（起業、商品開発、地域ブランドなど） ・イベント運営（地域祭り、コンサート、マルシェなど） ・その他...

<p>設問15： その活動には、どのような立場で参加しましたか？ (複数選択可)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で参加 ・知人・友人・先輩後輩と参加 ・団体等を立ち上げて参加 ・既存団体等のメンバーとして参加 ・学校の活動(探究事業・サークル・ゼミ等)の一環で参加 ・会社のCSR活動として参加 ・運営サポートスタッフとして参加 ・その他...
<p>設問16： その経験から得られたもの (複数選択可)</p>	<p>仲間 / 学び / 達成感 / スキル / 地域への愛着 / その他...</p>

ウ. 地域への関心度

質問	選択肢
<p>設問17：ゆかりのある広域圏内の地域に、また関わりたい気持ちはどのくらいありますか？（必須） 1：全くない～10：とてもある</p>	<p>1～10（数値）</p>
<p>設問18：上記の回答理由について、「プラスの要因」を教えてください。（複数回答可）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族や友人がいるから ・ 地域に愛着があるから ・ 自然環境や風景が好きだから ・ 食べ物や文化が魅力的だから ・ 学校や仕事などで地域に関わった経験があるから ・ 地域の活動や取り組みに魅力を感じるから ・ 特になし ・ その他
<p>設問19：上記の回答理由について、「マイナスの要因」を教えてください。（複数回答可）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関わる時間や機会が少ないから ・ 地域にあまり興味関心がないから ・ 若者向けの活動の場が少ないから ・ 地域での活動情報が分かりにくいから ・ 地域に同世代の人が少ないから ・ 将来に向けた発展性が見えないから ・ 特になし ・ その他
<p>設問20：地域でやってみたい／参加してみたい活動があれば教えてください。（複数選択可）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多世代・国際交流（イベント／コミュニティなど） ・ 学びの場づくり（勉強会／読書会／探究カフェなど） ・ スポーツ活動（大会運営／サークルづくりなど） ・ 環境保全活動（清掃／植樹など） ・ 子ども支援活動（遊び場づくり／学習サポートなど） ・ 高齢者支援活動（買い物・生活支援など） ・ 防災活動（避難訓練／防災マップ作成など） ・ ビジネス・起業（イベント／コミュニティなど） ・ 健康づくり活動（運動教室／食事改善ワークショップなど） ・ 地域産業応援（マルシェ／観光PRなど） ・ 食を通じた活動（料理教室／食文化体験など） ・ 芸術・文化活動（ワークショップ／展示企画など） ・ 特になし ・ その他...
<p>設問21：将来も現在お住まいの地域に住み続けたいと思いますか？（必須）</p>	<p>1～10（数値）</p>

1：全く思わない～10：とても思う

エ. 行動阻害要因

質問	選択肢
<p>設問2 2：これまで地域活動に参加したことがない／できなかったという方に質問です。 その理由を選択してください。 (複数選択可)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間的な負担 (活動時間の長さ・頻度等) ・ 情報がわからない (活動事例・団体情報等) ・ 一緒に参加する仲間がいない ・ 経済的な負担 (交通費等) ・ 自分に何ができるのかわからない ・ 興味本位で参加してよいのかわからない (知識・スキル・経験等の有無) ・ 団体の輪になじめるのか不安 ・ 継続的に参加できるか分からない ・ 会場など活動場所が遠い ・ 興味がない ・ 特になし ・ (積極的に参加しているため、回答なし) ・ その他
<p>設問2 3：参加を迷うときの一番の理由 (単一選択)</p>	<p>同上</p>
<p>設問2 4：活動に参加しやすくなる要素 (複数選択可)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的な支援 (交通費支給・報酬や謝礼の有無等) ・ 活動時間の柔軟さ ・ 短時間でも体験できる機会 ・ 活動中や興味のある人たちが集う交流の機会 ・ 活動のアドバイスが受けられる ・ 友人と一緒に参加ができる ・ 個人で参加できる ・ 自分の知識やスキル、経験等が活かせる ・ その他...

オ. 期待とニーズ

質問	選択肢
設問25：地域活動に参加するなら、どのような「参加形態」を希望しますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者としてイベントや活動に参加したい ・運営メンバーとして企画や準備から関わりたい ・ボランティアとして当日の手伝いをしたい ・自分のスキル（例：デザイン・写真・広報など）を活かして参加したい ・報酬（例：金銭、特典など）を得られる形で参加したい ・参加しない
設問26：地域活動に参加するなら、どのような「参加期間」を希望しますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・短期間・単発で気軽に参加したい ・継続的にじっくり関わりたい ・参加しない
設問27：地域活動に参加するなら、どのような「参加スタイル」を希望しますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で参加したい ・友人や知人と一緒に参加したい ・子どもや家族と一緒に参加したい ・参加しない
設問28：地域活動に参加するなら、どのような「参加方法」を希望しますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・現地参加 ・オンライン参加 ・参加しない
設問29：活動を通じて得たいもの（複数選択可）	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルアップ ・仲間づくり ・就職につながる経験 ・自分の中での満足感や達成感 ・周囲からの感謝や評価 ・特になし ・その他...
設問30：行政や地域に期待すること（複数選択可）	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の挑戦を応援する風土 ・多様な人が受け入れられる雰囲気 ・学びや成長の機会がある場 ・地域の人とのつながりが生まれる場 ・子どもや若者が安心して過ごせる居場所 ・活動やアイデアを実現できる仕組み ・失敗しても挑戦を評価してくれる文化 ・世代を超えて交流できる環境 ・新しい取り組みに挑戦する企業や大人がいること ・その他...

セクション10 クロージング

質問	選択肢
<p>回答内容に応じて、後日ヒアリング調査をお願いする場合があります。</p> <p>その際、ヒアリング調査にご協力いただけますか？</p> <p>※ご協力いただいた方は、特典の当選確率がアップします。</p> <p>※「協力する」とご回答いただいた場合でも、必ずご依頼するわけではありませんのでご了承ください。</p>	<p>協力する / 協力しない</p>
<p>今後、若者の地域活動に関連したイベントやワークショップへの参加に興味はありますか？</p> <p>※参加を強制するものではありませんが、ワークショップやイベント参加募集周知をお送りさせていただく可能性があります。</p>	<p>はい / いいえ / わからない</p>
<p>最後に何か記載したいことがあれば自由にお書きください。</p>	

2.ワークショップ内容

<ワークショップの進行>※学生回、社会人回共通

(1) 全体説明 (20分)

① オープニング・テーマ共有 (10分)

- ・ 開会挨拶、趣旨説明
- ・ 本ワークショップの目的共有
- ・ 当日の流れ説明

② 自己紹介 (10分)

- ・ 1人1分程度で自己紹介(氏名、所属、現在取り組んでいること等)
- ・ 参加者同士の相互理解を図る

(2) 個人ワーク「やりたいこと/やれない理由」の言語化 (20分)

① やりたいことの書き出し (10分)

- ・ お金、人、知識、世間体などの制約を一度取り払い、「本当はやってみたいこと」を付箋に記入(1枚1項目)

② 実現できない理由の整理 (10分)

- ・ 行動に移せない要因を書き出す

(3) グループディスカッション①「阻害要因の共通点・違い探し」 (20分)

- ・ 各自の付箋を共有
- ・ 属性(会社員・経営者・個人事業主など)ごとに整理
- ・ 共通点や相違点を模造紙に可視化
- ・ 立場の違いによる意識差を整理

(4) グループディスカッション②「実現に向けたアプローチ検討」 (20分)

- ・ 整理した阻害要因をもとに、「解決につながる仕組み・環境」を検討

(5) 全体共有・まとめ (20分)

- ・ 各グループによる発表

① 課題の分析(行動の阻害要因)

② 解決に向けたアプローチ

- ・ ファシリテーターによる総括

(6) 振り返り・ネットワーキング (20分)

- ・ アンケート回答
- ・ 参加者同士の交流
- ・ 今後のつながりづくり

【学生回】Z世代本音ワークショップ

等身大の想いを、まちづくりにつなげよう！

2025年11月08日（土）10:00～12:00

主催：郡山市ダイバーシティ推進課Z世代活躍係
企画運営：FindValue株式会社

僕と一緒に
本音で語ろう！

ファシリテーター
FindValue株式会社 代表取締役 大川翔

【社会人】Z世代本音ワークショップ

等身大の想いを、まちづくりにつなげよう！

2025年12月04日（木）18:30～20:30

主催：郡山市ダイバーシティ推進課Z世代活躍係
企画運営：FindValue株式会社

僕と一緒に
本音で語ろう！

ファシリテーター
FindValue株式会社 代表取締役 大川翔

当日使用したスライド資料の表紙

3.ヒアリングシート

Q1. 自己紹介と今の生活（導入・アイスブレイク）

「今、どんな生活をしていますか？学校・仕事・趣味など、簡単に教えてください。」

Q2. 地域との関わりの原体験

「これまでに“地域と関わった”と感じた経験があれば、印象的だった出来事を教えてください。」

Q3. “地域に関わりたい”と思う瞬間

「どんな時に『地元や地域に関わりたい』と思いますか？または、なぜそう感じると思いますか？」

Q4. 逆に“距離を感じる”場面

「地域活動に興味があっても“参加しづらい”と感じた経験はありますか？それはなぜですか？」

Q5. モチベーションの源泉

「あなたが何かに“関わりたい”“動きたい”と思うとき、原動力になっているものは何ですか？」

Q6. もし地域で「こんなことができたら」

「“こんな活動があったら参加したい!”と思えるようなアイデアやテーマがあれば教えてください。」

Q7. サポートへの期待

「自分が動きやすくなるような、行政や地域の人たちに期待したいことはありますか？」

Q8. 最後にひとこと

「Z世代として、今の地域やまちづくりに対して思っていること・言いたいことがあれば、何でもどうぞ。」

こおりやま広域圏Z世代活動意欲調査 報告書
令和8年2月発行

調査主体：郡山市 ダイバーシティ推進課
〒963-8024 郡山市朝日一丁目23番7号
TEL 024-924-3351

調査委託：FindValue株式会社